

もっと！孕ませ！炎のおっぱい超エロアプリ学園！

# アートワークス

Let's make a vaginal cum shot to a funny sexy students with cute big boobs.

コアマガジン







もっと！孕ませ！炎のおっぱい超エロアプリ学園！

アートワークス  
Art Works





# Contents

P005 版權イラストギャラリー

P028 美咲 恋乃香

P036 黒森姫 晶

P044 西園寺 奈々子

P052 水瀬 摩耶

P060 湯谷 ひなた

P068 御堂 楓

P076 園宮 優華理

P084 伊々月 リリア

P092 リーゼシャルロ・フォン・ケーニッヒ (リーシャ)

P100 ハーレム&その他イベント

P106 サブキャラクター

(下城 絵美里/星置 めぐみ/藤野 薫/川沿 玲奈/里塚 舞  
茨戸 祈子/伏古 かなめ/石山 道子/平岡 珠子/篠路 遥香)

P112 背景コレクション

P114 立ち絵デザインラフ画セレクション

P126 インタビュー

P130 奥付







め! 孕も! 炎のあっぱい  
**超エロ学園!**  
アプリ

もっと! 孕ませ! 炎のおっぱい超エロ♥アプリ学園!

Illustration Gallery













▲販促B2タペストリー (FANZA)









▲販促B2タベストーリー (駿河屋)





▲販促B2タベストーリー (ソフマップ)





▲販促B2タベストーリー (トレーダー)





▲販促B2タペストリー (げっちゅ屋)





▲コミックバベル2020年1月号表紙イラスト

▶販促B2タペストリー (とらのあな)









▲クリアファイル





▲やわらかクリアチャーム (西園寺 奈々子)



▲マスターアップイラスト



▲やわらかクリアチャーム (水瀬 摩耶)



▲やわらかクリアチャーム (リーシャ)





頭脳明晰で運動神経も抜群なOcup幼なじみ

# 嬢ヶ崎 莉音

Rio Jyogasaki [CV: 御苑生 メイ]

身長: 160cm

スリーサイズ: B118 / W56 / H86

能力: グラヴィティ・スキル (重力制御) Lv5

副作用: 甘えたくなる、キスが欲しくなってしまう

炎 寿馬の隣家に住む幼なじみの十啞瑠女学園2年生。気の知れた知人や友人の前では毒舌になるが、文武に秀でた優等生。ヤキモチ妬きで、かまって欲しいあまり思わずなじってしまうなど、恋心をよせる炎寿馬の前では少しポンコツ気味に。恋愛には奥手だが彼の世話だけは焼きたがる。



「わ、わたしが……貴重な時間を割いて教えてあげてるんだから……か、感謝しなさいっ!」



O-cup

## FACE COLLECTION



制服

スーツ

水着

テニスウェア

私服

裸



「あひいいいんっ、んああっ、ふああん！  
し、舌が……熱いっ……くはあああっ、燃えてる  
みたい……ふあっ、ひやはあっ！」

舌を当てるたび、莉音は仔猫のような小さな鳴き声をあげながら、弱々しく左右に首を振る。そんなふうに反応されたら、もっといじめたくなっちゃうだろ……！ ふと視線を下にずらすと、小さなすぼまりがヒクヒクと開閉していた。ついでのようにそこにも舌を這わすと、莉音の腰がピクンと跳ね上がる。

莉音「ひゃっ……ど、どこ、舐めてんのよ……そんなとこ汚いからっ……や、やめてえっ……あああんっ！」

莉音がイヤイヤをするたびに股間が硬さを増し、ドクンドクンと脈打ってくる。

炎寿馬「ここは風呂場だからちっとも汚くないぞ。柔らかくてプニプニしてとても美味い。れろれろれろれろ」

しかし莉音が恥ずかしがるので、アナルは程々にして再びおまんこ穴のほうを舐めしやぶる。

莉音「ダメっ、ダメえ、いやああん、やめなさいっ……あっ……んん……ああん、はひい……ふあああっ！！」

後ろを責める前よりも愛液の出がよくなっている。やっぱり気持ちいいんじゃないか、こいつう。







**炎寿馬**「ほら、お前がして欲しいことは？　ずっと俺の名前呼んでただろ？　俺にどんなことして欲しかったんだ？」

小刻みに肉棒を抽挿しながら問いかける。

**莉音**「あッ……はあッ……ああッ……ンっ……ダメえ……う、動かしちゃ……あッ、はひいん……んくッ、はッ、うううああ……っ！」

莉音は嬉しそうに表情を緩め、濡れた肉壁でペニスをしっかりと捕まえてきた。うっとりとした吐息を漏らし、小さな喘ぎ声を発している。俺にバレないようにしているのだろうがバレバレだ。そしてしばらく逡巡した挙げ句、恥ずかしそうに口を開いた。

**莉音**「……も、もっとお……。入れてえ……。　お、奥のほう、突いてよお……。ンっ、お、お願い……。だからあ……。ああ……。はうん……。下城君の……。おチンポ、待ってたんだから……。　はあ……。はあ……。お願い……。もっと……。してええ……。したいの……。うう……。ああん……」

目を潤ませながら小さな声で、それでもしっかりと俺に訴えかける莉音。ここまで言っていただけとは思いませんでしたゆえっ！

**炎寿馬**「よっしゃああッ、仰せのままにイッ!!」

深々と貫くと、俺のモノを包み込んでいる柔らかなヒダがギュウッと強く絞り込まれた。

「ひゃッ、あッ、ああッ!?　あ、熱くて、硬いッ……。はひいん!　あッ……。あああッ、伝線しちゃうッ!　や、破け……。はあああん!!」





莉音の子宮めがけて、たっぷりと熱い精をほとばしらせる。ほぼ同時に莉音も絶頂へとのもりつめた。さっきのように激しく潮が飛び散り、乳首からは母乳が真っ白な飛沫をあげる。

炎寿馬「おおおっ、すごえっ!」

莉音「はあああん、おっぱい出ひゃってりゅうっ! ああああっ、らめえ、イッひやううっ、イクイクっ、ンンンンンっ!!」

勢いよく膣内に注がれた精液の感触を楽しむように、莉音は背を大きくのけぞらせて熱い息を漏らした。くびれた腰を艶めかしく揺らし、全身をガクガクと痙攣させている。

莉音「あふあああ……お、お腹の中、いっぱいになってりゅ……あったかくて……はふ……ン、気持ちいいよお～……」

奥まで挿し込んだ肉棒をギュウツと締め付けながら、莉音は気持ちよさそうにピクピクと下半身を震わせた。



「はああああっ、きてえっ! ああっ、うん、あにゃたのっ……しゅきな場所に、しゅきなだけ、らしひゃってえええっ!!」







「はぁぁん、あ、あにゃたにゃんかに  
しょんなこと言わりえたって、う、嬉ひく  
にゃんか、にゃいんりゃかりゃ…くひいっ、  
あ、あぁっ、はっ、はぁぁっ!」



**莉音**「ふぁぁっ! はっ、はひっ! ン、うっ、う  
うううっ、お、おチンポがあっ……お、奥まで  
っ、来てりゅっ! ズンズン突かりえて……はあ  
あぁぁっ! あっ、ンあぁっ、も、もっど…おマン  
コもっど、めひやめぢやにひてえっ! うあぁっ!  
あっ…あぁぁんっ、んひい…あうんっ、ンっ!  
はひいひいっ!!」

もはや自分でもなにを言っているかわかってない  
な。そういう俺も、遠心力のせいか頭が真っ白で  
なにもわからない。ズブズブと莉音のマンコの中  
に雄身を突き込むたび、温かくて柔らかな締め付  
けがもたらされる。ずっとこの快感の中にたゆた  
っていたかったが、男には射精というものがある  
ため、どうしても終わりは来てしまう。

**炎寿馬**「莉音っ、いいか? 出すぞ!」

**莉音**「い、いちいち、聞かなくてもっ、いいのよ  
っ、しゅきに、らひなひやいよ……こ、ここは、あ、  
あにゃた、専用にゃんらからっ!」

艶のある表情でヨダレまで垂らしながら、莉音  
が恥ずかしそうにそう言った。

**莉音**「はあ、あぁぁん、子宮にたっぷり欲しいによ  
……お、男らしいおチンポザーメン、いっぱいお  
マンコの奥に注いでちょうらい! あぁぁん!  
私も……ン……あっ、うっ! ンあぁっ、イキそう  
っ……イキそうにやのっ……ふぁぁっ、あっ、お  
チンポ、おチンポが、気持ちよくて……ひぁあ  
ン!」



「私のラケットのくせに、他の選手に目移りするなんて贅沢だわ。誰が所有者か、じっくり教えてあげようかしら……？」

莉音「はあはあ……くはあっ……あうんっ、んっ……あああああっ、も、もうっ……特訓中に……悪戯しにやいでちょうらい……ンンン……」

互いの秘部を手で愛撫し合う。指にまわりついたスルスルが、もうスルスルすぎて、スルスルのままスルリと尻穴のほうにまで滑っていく。

莉音「きゃんっ！ はああっ……ああっ、そこは……ああん、その触り方なんて……ンンふう……レクチャーしてないわよ……はうん……」

炎寿馬「莉音コーチ、さっきから滑っちゃダメと言いつつ、ご自分はスルスルの滑りまくりなのでは……？」

莉音「あ、ああん、そ、そうね……それじゃあ、あなたがこんなに濡らしていても、なにも言えないってわけね……はああ……ンふう……。じゃあ……もっともっと、滑らせてあげるから……はふっ、あっ……ンんっ、ちゅっ……ちゅうっ……」おでこにチューしながら、さらに激しく手を上下させてくる莉音。



莉音「ひゃああっ？ にや、にやに、しゅんのお……ああああ、も、もう、イッたのにいっ！」

炎寿馬「まあまあ。すぐ終わるからッ」

莉音「ダメえっ、ダメ、ダメえっ、いやあ——っ！ き、来ちゃうからあっ……は、激しいの来て、おかひくなっちゃうのおおおっ!!」半狂乱になって叫ぶ莉音の腰を抱え込む。中出し精液と彼女の愛液がグッチョングッチョんととんでもない音を奏でている。

莉音「やああっ、らめえ、はあああっ、ん……あっ、うっ！ はっ、ひいっ！ ひゃあああっ、イッひやう！ まらイッぢやうううっ！」

膣壁がギュンギュンと締め、龟头を潰さんばかりの勢いで収縮した。細かいヒダがよい仕事をしてくれているっ。



「ううっ……ン、あっ、うっ……あああっ、ああああっ、しゅごいっ、赤ひゃんのお部屋が、コンコンってノックされてりゅの…ふあ、あっ、ああっ、ン！」



**莉音**「うふう……ンあ……ンう……ああん……なんか、私の胸の間にピクピク動いてるう……ンン、くうっ、ンっ……あああん……。はあはあっ……ンああ……あううう、ンンン……うふふふっ……ホントに暴れん坊なんだから……“キミ”は♪」



024





「あああああつ、あちゅいのがお腹の  
にゃかにっ……あああああんっ、あ、  
赤ひゃんがびっくりひひやうう……っ!!」

もはや絶頂を堪えるのが精一杯という感じになっている俺。  
莉音もまた俺のストロークを受け愛しい男を女として受け入れ  
られるよう腰を持ち上げ振り立ててきた。

炎寿馬「くうっ……そろそろ……イクぞっ!」

莉音「んああっ、ンんっ、来てえっ! 赤ひゃんに栄養いっば  
いちょうらいっ! おチンポザーメンたっぷり注ぎ込んれええ  
えっ!! くひいっ、ンンンんっ、ああっ、ああっ! ひっ、ひ  
いんっ! ン、うっ、ううううっ!」

炎寿馬「ああっ、莉音っ! イクぞっ、もうイクっ!」

莉音「きひひひっ……狂いそううっ、ああっ! ひゃあああ  
っ、変になるうっ、ああっ!」

射精寸前で膨れ上がったチンポで子宮口を軽く突いてや  
る。

莉音「あああっ! と、とろけひやううっ、はっ、ひいっ! あ  
んっ、あああんっ! くっ、くうううんっ! ひやううっ……  
んんっ!」





おっぱいの大きさがスキル能力に影響する特殊能力パイコキネシス。当然、学園ではおっぱいを大きくする特訓が推奨されている。今日は普通に揉んだりするようなバストアップ特訓ではなく、ちょっと趣向を変えた特訓を考えてみた。

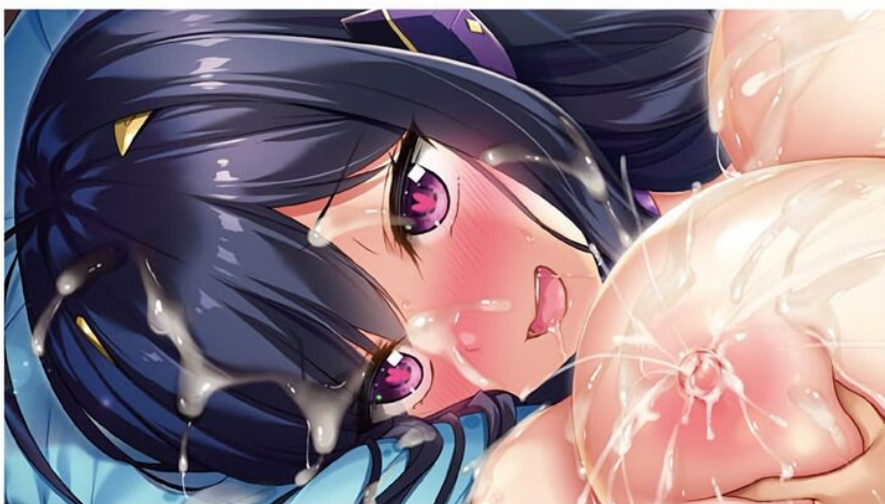
**炎寿馬**「母性本能を刺激すると、女性ホルモンの関係でおっぱいも刺激されてバストアップに繋がるという説があるとかないとか」

**莉音**「うう……本当に真面目に考えた上での特訓なんでしょうね？」

**炎寿馬**「もちろんだよお、莉音ねーちゃん。あつ、ねえねえ、莉音ねーちゃんって呼んでもいい？」

**莉音**「くっ……！　しょ、しょうがないわねっ！　気がすまないけど、特訓ということなら仕方がないわ……」

莉音は視線を宙に泳がせながら俺を引き寄せ、ギュッと抱き締めてくる。



「あ、ああん……ああん、もうっ……エ、エッチな吸い方、するんじゃないわよ……ンンンっ、まったく……ああつ、お、おませさんなんだからっ」





「私をほったらかしにして、ママばかりずるいっ！お姉ちゃんにももつと甘えなさいっ！」

**天舞音**「昔はよくいっしょに入ってよく洗ってあげてたの憶えてるかしら？ いつのまにかもうこんなに“大きく”立派になっちゃって……もつと大きくなっちゃうのかしら？」  
莉音とのキスに夢中になっていると、天舞音さんの長い指先が、勃起していたチンポを絡めとる。まるで尋ねるようにくすぐったく、亀頭やエラを擦る。

**莉音**「こ、こんなに大きくして……エッチな男の子にはお姉ちゃんがたっぷりお仕置きして上げるわ」  
莉音の手まで加わって、天舞音さんと一緒になってチンポをくまなくマッサージし始める。心地よくて全身から勝手に力が抜けていく。すると、莉音がさらに激しく唇をおし

つけてくる。

**莉音**「ちゅっ、ちゅぶ……もつと反省しなさい……ちゅぶ、レロレロ」

**炎寿馬**「はあはあ。は、ハイ……んちゅ、んちゅ、うう」  
しっかり者の莉音と天舞音さんが、最初から食欲にチンポを欲しがっている。ならばもつと、わんぱくなおねだりをしていてもいいかもしれない！

**炎寿馬**「天舞音ママ、ボク……チンチンがすぐくっくしいよ」

**天舞音**「ま、まあ……おませさんね……ママが楽にしてあげるわ」





北海道出身の甘えん坊なPcup新人アイドル

# 美咲 恋乃香

Konoka Misaaki [CV: 花澤さくら]

身長: 158cm

スリーサイズ: B119 / W55 / H85

能力: アバター (分身能力) Lv3

副作用: 乳首の勃起が止まらなくなる

+ 啞瑠女学園に通う、明るく甘えん坊な炎寿馬の幼なじみ。幼い頃は莉音も含めた3人でよく遊んでいて、今でも休日には炎寿馬の家にお邪魔している。北海道の難読地名についてかなり詳しく、感情的になると北海道弁が出ることも。最近、昔からの夢を叶えてアイドルデビューを果たす。

「大変だよ！  
だったら、しーちゃんから  
スケベを取ったら何も残らないよ!!」



制服  
(ピンクリボン)

制服  
(白リボン)

制服  
(青リボン)

## FACE COLLECTION



スーツ



水着



アイドル



裸





「んっ、んんっ、ちゅるっ、じゅるるっ、じゅるるっ、んはっ………苦い………かも？」

**恋乃香**「んっ、はあっ、んちゅっ、れろれろっ、じゅるっ、んちゅっ、あふっ」

**炎寿馬**「くう……気持ち良すぎ……あっ」  
一所懸命頭を動かしているせいか、ビキニがずり下がり恋乃香の乳輪と乳首がハッキリ確認出来る状態になっていた。

**炎寿馬**「マジか、恋乃香のやつ、すっかり大人の乳首じゃないか！」

乳輪もぷくらと膨らみ、ガキの頃にふとした拍子で見た乳首とは明らかに違う。

**恋乃香**「はあっ、んちゅっ………なんだか、身体が熱いような……ちゅっちゅっ、じゅるるっ」

**炎寿馬**「っ……乳首もしっかり勃起させやがって、エロ可愛すぎ……くう」

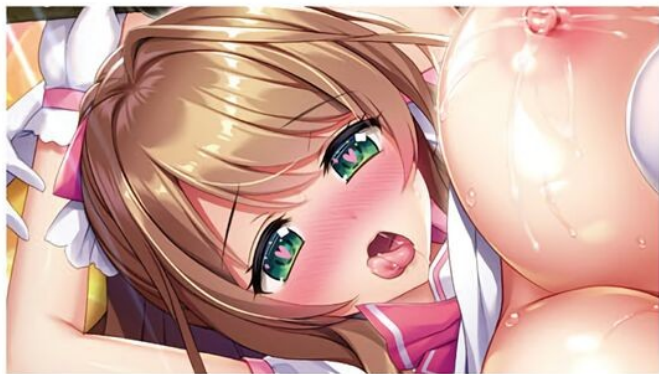
気付いた視聴者も、画面上の文字弾幕で乳首祭り状態だ。

**炎寿馬**「普段近くにいる女の子の乳首を見るのって、メチャクチャ興奮する……っ！」

ゲームやAVとも違った感覚だ……とにかくエロい。

**炎寿馬**「一生懸命しゃぶってくれてるけど、今この瞬間に興味があるのは……そのいやらしいおっぱいだ！」





「ああっ、んんっ、うちっ、妊娠してないのにっ、おっぱいっ、いっぱいっ、出ちゃってるのおっ、ふあああっ、ああんっ」

恋乃香「あふっ、んんっ、赤ちゃんっ、あんっ、なめかたっ、ふあっ、えっちすぎっ、だってばあっ、あっ、ああんっ」

炎寿馬「ばぶー」

恋乃香「あくっ……あんっ、だんだんっ……身体の力が、抜けてきちゃうよ……ふああっ」

脱力し始めた身体を弄ぶかのように、ひたすらおっぱいを揉んで吸い続ける。

恋乃香「はあん……おっぱい、おいしいでちゅか……？」

炎寿馬「ばぶばぶ」

恋乃香「お腹いっぱいっ、んくっ、チュウチュウしてね……はあんっ」

乳首に吸い付いてる俺の頭を撫でながら、そんなことを言うってくる。

恋乃香「おっぱい、チュウチュウされると、あふっ、おマンコの奥がっ、んあっ、キュンキュンしてるっ、感じ、ああんっ」

それにしても、揉む度に母乳が出てくるな……エロアブリ、すげえ。

炎寿馬「ばぶー」

両おっぱいを掴み、乳首同士を擦れ合わせてやる。

恋乃香「あっ、それっ、ふああっ、乳首っ、擦れちゃってっ、ああんっ」

しばらく擦れ合わせた後、ひとつにまとめるようにして両乳首に吸い付いた。





「ああんっ、おマンコにつ、おちんちんっ、  
当たってるうっ、それにつ、おっぱいがあああっ！」

**恋乃香**「おっぱいっ、搾られちゃってっ、いっぱい出てるよおおっ!!」  
**炎寿馬**「これは搾乳体験のコーナーだから、おっぱい搾る所、大勢に見て貰わないとな」  
**恋乃香**「んんっ! そんなコーナー、ないよおおっ……あふっ、はああんっ」  
快感が身体中を巡り始めたのか、初めの威勢の良さがなくなってくる。  
**炎寿馬**「ほら、見えるか恋乃香? おっぱい、メチャクチャ搾られてるのが」

**恋乃香**「んふっ……見えるよお……あっ、あふっ、ふあああっ」  
**炎寿馬**「気持ちいいくらい、いっぱい出てるな」  
**恋乃香**「あくっ、んんっ、あああっ、んあっ」  
**炎寿馬**「搾乳機の方が、俺のペロペロより気持ちいいのか?」  
**恋乃香**「ああんっ、しーちゃんのいじわるう……あっ、んんんっ」  
恋乃香の瞳に、甘えるような色が見えた。  
**恋乃香**「しーちゃんのペロペロの方がっ、いいに決まってるよお、あああんっ」



「しきゅっ、子宮まれっ、  
おチンポ当たってうのおおおっ!!」

**恋乃香**「しーちやっ、動いれっ、うちのおマンコっ、下からいっぶあいっ、ちゅきあげてえええ!!」

動きやすいよう、恋乃香との空間を保つようにして、腰の抽挿を続ける。

**恋乃香**「ああっ、んああっ、おちんぶおっ!!」

耳障りな水音が、動く度に耳へ届く。

**恋乃香**「じゅんじゅんっ、はいってうっ、うちのおマンコっ、じゅぶじゅぶ入ってうのおおおっ!!」

**炎寿馬**「恋乃香……すごい濡れてる……っ」

**恋乃香**「あっ、んんっ、おマンコちゅかれっ、おっぱいもっ、いっぶあいてるのおっ、ぐしょぐしょよおおおっ!!」  
俺の動きを封じるかのように、体重をかけ膣口を押し付けてくる。

**恋乃香**「気持ちよしゅぎれっ、うちっ、おかひくなりそうらよおおおっ!!」

**炎寿馬**「っ……」

主導権を奪うかのように、恋乃香は自分のペースで腰を動かし始めた。

**恋乃香**「れもっ、もっつ、もっ気持ちよくっ、なりたいのおおおっ!!」







「んんっ！ クリちゃんっ、  
ペロペロされてるよおっ、  
んんんっ！」

**恋乃香**「んあっ！」

クリトリスに指が触れた瞬間、大きく仰け反って動きを止める。

**恋乃香**「クリちゃん、んふっ、いま、触られちゃってるよお、えっちな指につ、触られちゃってるう、はあっ、んんっ」

**炎寿馬**（クリトリス、超勃起してるぞ）

**恋乃香**「あふっ、んんっ、いじっちゃっ、いやあっ、だめえっ、んんっ、あんんっ、声、我慢できないよお」

泣きそうになっている恋乃香の声が、強い興奮をあおり立てる。

**炎寿馬**（これ、マン汁溢れすぎだろ）

手首まで恋乃香の愛液に汚され、そんな事を考えてしまう。

**恋乃香**「うち、こんなにヘンタイさんじゃないよお……」

**炎寿馬**（いや、お前は立派なヘンタイさんだ）

……まあ、そういう所も好きなんだけど。

**恋乃香**「どうしよう、この後の撮影で、濡れちゃってるのパレないかなあ……」







「ふふん……しーちゃんは……ここが  
ペロペロされるの好きなんだからっ……  
レロレロちゅっ」

**恋乃香**「レロレロうちたちのキスで……しーちゃんの亀さん♥ ……  
すっごくパンパンになっちゃってるの」

**炎寿馬**「当たり前だろっ!」

そんなはち切れんばかりのおっぱいを身体の上ののせられペロペロ  
されたらホモでも無い限りピンピンになるんだぜっ!

**なのか**「うううんっ……ちゅぶ♥ ちゅっ♥ ……ンンンンっ♥  
ちゅ♥」

**恋乃香**「んふうっ、しーちゃんイきたいの? ……いいよっ……おっ

ぱい妊娠しちゃうくらい……お口とおっぱいの中にちょーだいっ♥」

**炎寿馬**「はあはあ……そんなかわいくおねだりされたら断れるわけな  
いだろっ」

**なのか**「しーちゃん、私のお口にもドロドロのいっぱいちょーらいっ、  
じゅるるるるるるっ♥」

強く吸引された瞬間、俺は堪えていたものが外れて二人のスケベな  
口と顔、胸に向かって一気に吐き出していた。



なのかと俺に上下責められてアヘアへの幼馴染み爆乳アイドルになってしまっ  
ている恋乃香。マンコはすっかり俺のチンポの形を憶えてしまって、結合部分は俺  
のチンポの太さに思っきり広がっていた。すっかりやらしいマンコになったな  
っ、恋乃香のマンコ。

**恋乃香**「しーちゃん、しーちゃん、しーちゃんああんっ!」

**炎寿馬**「はっ、はっ……恋乃香、どうされたいんだっ、どうなりたいんだ? 俺が  
全部叶えてやるぜ」

**恋乃香**「あううっ……しーちゃんっ♥ しーちゃん♥ しーちゃん♥ ああんっ」  
激しく突く度に恋乃香となのかの赤くぷくらと勃起したクリトリスが擦れあい  
二人の快感ゲージを一気にトップへと押し上げた。

**恋乃香**「しーちゃんの全部、うちのおマンコに射精してえっ♥ ああっ ドドロ  
ロに混ざって……ああああんっ……しーちゃんと一つになりたいのっ!」

「ああっ♥ ……しーちゃんっ、おマンコ気持ち良すぎて、どこまで  
おマンコかしーちゃんか……わ、分からなくなって来ちゃったのおっ♥」



「はあはあ、しーちゃんのおひんひんっ、せーしどぴゅどぴゅ飛ばしすぎらよおっ……」



なのか「もう、エッチだなあ……ねっ、恋乃香？」

恋乃香「んふっ、れろっ、ちゅびっ、じゅるるるっ」

なのか「恋乃香ってば、おちんちんしか見えてないみたい♪」

喋りながらも、手を動かすことを止めないのか。

炎寿馬「はあはあ……ヤバ……い」

恋乃香「ちゅっちゅっ、んはあっ、じゅるっ、れろれろ」

なのか「しーちゃん、イキそうなの……？」

炎寿馬「ああ……」

恋乃香「んっ、んふっ、んぐっ！」

俺の言葉が耳に届いたのか、ペニスをくわえたまま激しく頭を振り始める恋乃香。

なのか「恋乃香、そろそろホームラン打ちそうだって……ふふふ♪」

恋乃香「じゅるっ、らしてっ、うちのお口につ、ホームラン、じゅるっ、叩きこんれっ、ずじゅるるるっ！」

恋乃香「精液、たくさん中にキてりゅう……ううう、んんっ、はあっ、あっ、トロトロの熱い感触れえ、おマンコがいつまでも気持ちいいふう」

炎寿馬「マンコがニユルニユル動いて、くうっ！恋乃香のマンコはイッてもすごいなっ！」

射精感を促すために、交互に出し入れを繰り返して、綺麗な膣肉には似つかわしくない白濁液を流し込み続ける。あっという間に膣内から溢れて垂れ落ち、2人の良い匂いを強烈な雄臭で塗りつぶした。

聖子「なんて量の射精なの。はああ、ううっ、匂いも粘り気もとっても濃い……こんなの出され続けたら、絶対あぶないわよ♥」

恋乃香「子宮はもう精液でいっぱいようっ、ううん、ふうふう、きつと元気な精子が泳いじゃつれりゅう……♥」

「ふあああ、ひあああっ、おチンポよすぎれ、イっちゃいましゅうう、はひっ、あっ、あっ、おマンコがイきたいっれえ、叫んれるうう」







異世界ユリドラシル出身のQcup転校生

# 黒森姫 晶

Akira Kuromorihime [CV: 大和桜]

身長: 168cm

スリーサイズ: B121 / W55 / H85

能力: パワーアクセラレート

(瞬間的な筋力強化) Lv5

副作用: 身体にいろいろな模様の  
水着跡が浮かんでしまう。  
(スク水・ビキニ)



「城に……。目が怖い……。  
っていうか、目つきがエロすぎだぞっ」



ポジティブで明るく負けず嫌いなダークエルフ族の族長の娘。幼い頃、悪友的な付き合いをして一緒に風呂に入る仲だったため、炎寿馬には男だと勘違いされていた。再会の約束を果たすため、しばらく会えなかった間に大きくなった想いを伝えるため、十啞瑠女学園に転校して来る。



制服

スーツ

スーツ(淫紋)



部活

部活(脱衣)

水着

私服

裸

## FACE COLLECTION





# 「はあ……チンポが……おっぱいの中で…… ヤケドしそうなくらい熱くなってるよ……ンン、ふう」

晶「ああっ♥ ……スゴイっ♥ ……ンンっ♥ ……あはぁんっ♥♥」

腰をおっぱいに打ち込むたびにスライムからのローション、晶の母乳、唾液、チンポからのカウパーが混ざり合い白く卑猥に泡立っていた。

炎寿馬（はあはぁっ……スチュスチュしてたまないなっ）

晶「城にい……俺のおっぱいで……こんなにカチカチなっちゃって……すごうれしい……の……ああっ♥」

チンポで擦り上げるたびに桜色の乳頭がツンと突き出す。上半身をよじらせながらおっぱいから感じるチンポの熱と勃起具合に晶も牝の色を出し始めていた。

晶「ああっ……城にいつ……溜まってるモノ……俺のおっぱいに……出しているよっ……ああっ♥」



晶（はうん、恥ずかしいっ！ 試合中なのにおっぱい出ちゃってるよ……ンああ……）

混乱している様子の晶。しかし本人の意思に反して、母乳の出がどんどんよくなってきた。

炎寿馬（あうっ、それにしても……晶の口の中、めちゃくちゃ温かくて気持ちよすぎる……）

晶の口の中で肉棒がどんどん大きくなっていくのがわかる。まだフェラチオの技術は拙いが、咥えられているだけで恍惚としてしまう。

晶「ふうむふう……城にい……いいかげん抜いへよお……じゅぶぶっ……息が……れきないよ……ンっ、うぶ……くちゅっ、ちゅぶぶぶっ……」

炎寿馬「ふふふ、レスラーもこうなってしまうとは形無しだな。そんな舌づかいでは俺に勝つことはできないぞ、晶っ」

晶「ンう♥ か、勝ふ♥ 城にいに勝へばいいろは♥」

（はあ、はあ……城にいのチンチン、どんどん大きくなる……あたしが舐めて、余計に強くしちやっってるんじや……♥）





「あっ、あっあっ♡ ソンソソっ はひいっ♡ ああっ……  
奥の感じるどころまで……とどいてるよお♡♡」



激しい腰の打ち込みに晶の腰が徐々にブリッジでもしているように持ち上がっていく。本能が理性を呑み込み晶の口から破廉恥な言葉が次々と出てくる。普段、快活な姿しか見せないからその破廉恥な言葉がより一層エロく思え、興奮のボルテージを最高潮にまで押し上げた。

晶「城にいのチンポ……だめえ……さっきから気持ちのいいとこばかり……ノックしてくるの♡ ……ああッ!」

炎寿馬「晶のマンコも……チンポにまわりつくように最高だぜ!!」

擦り上げるたびに絡みついてくるピンクの膣肉。腰を引くたびに吸い付きチンポをはなすまいと甘く絡みついていた。

晶「城にいッ……音恥ずかしいヨお、おマンコからエッチな音イッパイしちやってるッ♡」

炎寿馬「晶のおマンコ、悦びまくってんじゃんっ! くっ! そらっ!」

晶「あっ♡ らめえっ♡ ……城にいっ……あっ、やだっ……ソソっ……あはあああッ!」





晶「ンンン！ んくちゅぶ…ずじゅるじゅるっ…ン、ンンうう…ンン…んちゅう…んれろろろ、ンンむう…じゅるううっ、んじゅるれりゅるれろお…」

激しく舌を絡めて、晶は美味しそうに俺の唾液を吸る。

晶「じゅぶう……あああっ……はあああっ……城にい、もう、俺、ああっ、き、来て、欲しい……また……ンンンっ、ふうっ、あっ、ああっ……。城にいっ、また熱いの出してっ！ 俺のおマンコの奥にっ、ドバツといっぱい出してえっ！ うああっ、あ、あんっ、あああっ、あああああっ！」健康的でしっかりした肉体の晶は、俺の力いっぱい

のピストン運動を全身で受け止めてくれる。  
炎寿馬（本気になったらきつと俺よりも力あるからな、きつと）

だから力加減とか、あまり気にしないでガンガン突くことができるのだ。控えめに言って最高かよっ！

晶「城にいっ、もっといっぴゃいおマンコグチャグチャにしてくれようっ！ そんでもってイカせて！ 俺、またイキたいんだよおっ！」

「あひっ、あひいっ、イ、イグっ、またイッちゃううっ！ 煮えたぎった精液、子宮に出さりえてイクっ、あああああああああっ！」





ドロドロマンコに龟头を揉みくちやにされて、背筋に稲妻が走った瞬間、尿道口から大量の精液が飛び出した。

晶「ひゃあああつ、あちゅい精液おマンコに来たあああーっ!! ひゃううんっ、精液いいっ、きもひいいっ、あつ、あつ、あああ、ああああん! イグっ、うっ、ああん! イグううーっ!!」

俺の射精を嬉しそうに受け止めて、晶は二度目の絶頂に達する。力強く痙攣する晶の秘裂からビュッと潮が噴き出し、店の床を水浸しにする。

炎寿馬「晶は人に見られると潮まで噴いちゃうド変態だなっ」

晶「やあん、らって、らってね、きもひいいの我慢れきにやいから……はああ、頭、バカになっひやうよ……んああ……あつ、ひっ……♪ はあ……はあ……ああん……いっぱいイカしてもらって幸せらよお……城にい……好き……」



「はひいいいっ、しゅごい音らあつ、きやはあつ、あああつ! 恥じゅかひいっ! マンコの音お、いやあつ、あつ……ふああつ、あつ! ああううんっ!」



「ンン……もっとお……城にい、  
もっとなんのこと……エッチに  
してくれてもいいよおっ！  
あっ、あああ……」

晶「城にいのチンポで……おマンコ幸せになっちゃうよおっつ!!」

普段強がりの晶が発することなどない無条件降伏もとい無条件幸福的な言葉に  
ピストンのクラッチが2段階ほど上がる。

炎寿馬（晶、くっそかわいいぜっ）

晶を突くたびに下半身が鮮烈と思えるほどの快感に満たされる。どんどん具合  
がよくなってくるマンコに高まる射精欲を堪えながら激しく挿抽した。

炎寿馬「晶っ、晶っ……イクぜっ、しっかり子宮の奥まで幸せにしてやるからな  
っ」

晶「ば、ばかあ城にいつ♡ そんなこと言われたら……おマンコキュンキュンし  
ちゃうからっ♡」

晶の言葉に呼応するかのようにおマンコ全体が激しく波打つようにキュンキュン  
と締付けてきた。

炎寿馬「晶っ……おマンコに搾り取られるっ!」

下腹に浮かび上がる紋章が強く輝くと同時に、晶の膣壁全体がチンポから精液  
を搾り取るかのごとく収縮した。





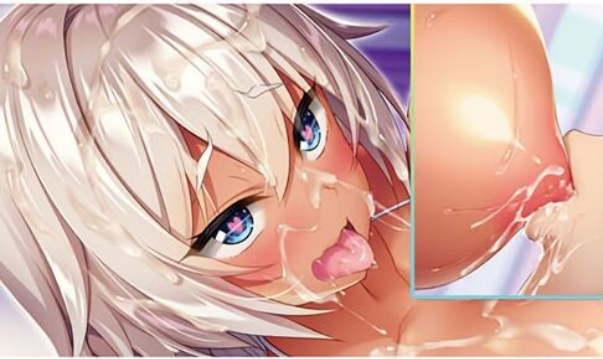


「ほ、ほらほらっ、どーだっ、こういうの好きか？  
チンチンがムクムク大きくなって、  
血管まで浮き出てきてるぞ」

晶「ああっ……そんなに一生懸命吸われたら……きゅんきゅんしちゃう♥ ……ン  
ンっ♥ あああっ♥ あっ♥ らめえっ♥ ……城にいっ……あっ、やだっ……ン  
ンっ……あはっあっ！ ど、どこの赤ちゃんが、しょんなやらしい吸い方しゅるん  
だよ……ひはっ、あっ……んひっ、はひ……ああ……ンン……」

炎寿馬「らって、おねえひゃんのおっぱい、おいちいんらもん、むぐぐう」  
大きく膨らんだ乳首を力を込めて吸うと、口の中に濃厚なおっぱいミルクの味が広  
がる。あとからあとからビュビュツ、ビュビュツと断続的にほとばしるお乳を、口の中  
に受け入れていく。

炎寿馬（すげえっ、まるでミルクの海だ……いくら飲んでもなくなるないぞ……）



「俺……早く……城にいの……その……  
赤ちゃん欲しいな……てへっ♥ ……ちゅうっ、ペロペロ♥」

疼く子宮をもっとチンポに寄せるような脚の引き込みに、俺は晶の中でさらに何度も脈動し精液を注ぎ込んだ。

晶「あっ……ひっ、あっ……はああンっ！ 中にドバドバ射精されるの気持ちよ  
すぎれえ、頭真っ白で、バカになりゆうっ♥」

悲鳴にも似た嬌声を上げ晶は激しく身体を波打たせた。

そして最後の一滴まで絞り出そうとするような強烈で情感たっぷりの締付けがチ  
ンポを包み込む。

晶「城にいっ、また熱いの出してっ！ 俺のおマンコの奥にいっ、ドバツといっぱい  
出してえっ！ うああンっっ！」

晶が絶頂に達したと同時に再び強烈な射精感が襲ってきた。

晶「はあああ あ〜〜♪ んあああ、おお〜〜、もっろちよ〜らい♪ あっつ  
いざーめんれえ、しきゅー溶かしれえ♪」

突きあげていた腰に全体重をかけるようにして俺は晶の中に白いマグマを爆発さ  
せた。







晶「あああああッっ、イクうっ、イク、イク、イクううう〜〜〜ッ!!」  
リリンダ「くはああッ、イクうっ、イクううッ!」  
ンはああああッ、イクうっ……シンシンッ!!」  
悲鳴にも似た二人の絶叫の中、それぞれの膣内に連続して熱い液体を流し込む。  
晶「くひゃあああああッっ、中出しされてりゅ! う、うれひいッ、ああああッ、城にいのザーメンで子宮が膨らんじゃうよお〜〜〜ッ!!」  
リリンダ「ンああッ、イクの止まらなくなりゅッ、ああッ、い、いッ……気持ちいいッ、あ、うッ、ああッ、ンああああ〜〜〜ッ!!」  
母と娘がプシャッと大量に射乳しながら、同時に身体をガクガクと震わせる。  
晶「あひいいいッ、城にいの赤ちゃん妊娠すりゅうッ! シンシンッ、たまんにやいよおッ、あはあッ、イクッ、ンああッ、イクううッ!!」  
リリンダ「な、中出しされるのッ、最高おおッ、はああッ、精液っ……ずっと出され続けていたッ、はあああッ! あッ、ああン!!」

「お腹の子が城にいの栄養たつぷりのミルク、飲みたがってりゅんだ!」  
お願いらよ、もっといっぱいドバツと与えてやってくれよおッ!」







触れて舐めて体調チェックするTcup保健委員

# 西園寺 奈々子

Nanako Saionji [CV: 綾野莉音]

身長: 159cm

スリーサイズ: B124 / W57 / H87

能力: コンディションセンサー

(舐めると体調が分かる) Lv4

副作用: 身体をいじめて欲しくなる (ドM発情作用)



「ああ……。先輩……  
ありがとうございます……。先輩……  
先輩はいつも、優しいですね」

全国で総合病院を経営する西園寺家の1人娘。慈愛に満ちた真面目で心優しい女の子で、学園に入学したばかりの新入生ながら保健委員をつとめている。気弱な上に恥ずかしがり屋で人見知りも激しいが、何故かいつもおっぱいを触りにくる炎寿馬とは普通に話ができる。体育の授業が苦手。



## FACE COLLECTION



制服

スーツ

水着

部活

裸



「そんな、いやらしいことを考える先輩には……  
私がお仕置きしちゃいますよ！」



口中にくえ込んでいた肉茎の先端に、奈々子ちゃんは舌をぬるるんと這わせてくる。

炎寿馬「しかもそこは……ッ！」

奈々子「ここお、れふかあ……？ ちろれろっ。おちんちんの……穴あ……っ。ちゆるん」

龟头をくわえながら、奈々子ちゃんは鈴口を、舌先でチロチロと舐めてきた。それに加え幹も、柔肉の谷間で強くズリズリッと擦り立てられる。

炎寿馬「んんっ！ 腰がムズムズしてくる……！」

奈々子「あっ、ン……!? さっきまれと、おちんちんの味……違う？ んちゆるっ、なんらかしよっぱくへ……濃ひい……っ」



口を半開きにしたまま、奈々子ちゃんはアヘアへとした声を上げる。その上全身をビクビクンッと思い切り痙攣させ、あまりの快感に体を仰け反らせていた。

炎寿馬「全部出すよ！ ザーメン全部、子宮に入れるッ！」

奈々子「ふへえええッ♥ ザーメンほんとにつ、子宮に入っへましゅ♥ ひゃあああッ♥ 子宮れイッでるウッ♥」

快楽に飲み込まれる奈々子ちゃんを尻目に、ドピュドピュと子宮内に精を吐き出す。小さな子宮はすぐに雄汁で溢れ、それが膣からも押し出されて、ゴボゴボと汚らしい音を立てながら結合部から流れ出てきた。

奈々子「きゃッ、んひゃあアッ♥ 健診らのにイ……っ、おちんちんもザーメンもきもひよくへッ、イグの止まりましえんんんッ!!」

「お、おちんちん……気持ちよく  
へえ……っ、ハアハアッ、ザーメンも  
熱くへ……っ、んん、体が  
溶けそうれしたあ……」







「先輩のお、おチンポさん……っ、  
私のおっぱいでこんなに……  
硬く、熱くなってます……ッ」

奈々子「はっ、はひい……っ。ハアハアッ、先輩は、ハイスコアでクリアしまひたから  
あ……っ、あう、おまけモードが、追加されまひゅ……っ」

まだ乳を踊らせるくらいに息を切らせている奈々子ちゃんが、スルスルとその場に屈  
み込み、すでに怒張っていた男根を取り出す。

炎寿馬「なっ、奈々子ちゃん!？」

驚く俺を尻目に奈々子ちゃんは、絶頂してさらにいやらしいピンク色に染まった豊満  
な乳房で、肉棒を挟み込んだ。

奈々子「はふう、ここから……っ、んんっ、先輩へのご褒美ステージです……ッ」

肉幹を乳房で包み込んだ奈々子ちゃんが、胸を好きにしてほしいとばかりにぐっと突  
き出してきた。



「はひひいんッ♥ 早くっ、おしっこ早  
く止まっへえーッ! うれション恥ずかし  
すぎへっ、もうらめれすううッ!」

奈々子「ひゃひんッ!? だっ、ダメえ♥ 今クリトリスっ、触れたらあ……  
っ、きゃああ! 先輩っ、らめッ♥ いやんっ♥」

炎寿馬「中からもチンポでつつく! んっ! んっ!」

我慢してヒクついている膣奥に、亀頭をコツコツとぶつける。さらにはお腹側  
の粘膜に、肉幹をゴリゴリとすり付けた。

奈々子「ふににイッ!? おマンコの中もっ、おチンポれ刺激されちゃ!? きゃ  
ううッ♥ いやっ、先輩! 先輩ダメ! いやあアッ♥」

かなり頑張っているようだけど、奈々子ちゃんの声はかなり切羽詰まってい  
た。肉体の痙攣も止まらず、特に下半身は爪先立ちになって小刻みに震えていた。

炎寿馬「俺に奈々子ちゃんのうれション、たっぷり見せてくれッ!」

奈々子「いやっ、先輩っ、見ないでダメっ! ああっ、でっ、でえッ、出ちゃう  
♥ きゃああ! でひやうっ♥ ああっ、アアアああッ!？」







「ハァハァッ……あうう……っ。  
飛び箱さんに、はあァッ、イカされ、ちゃいましたあ……ンンっ」



飛び箱から愛撫を受けるという恐怖や、周りに気付かれるかもという緊張、罪悪感と、それを上回る快感の闘ぎ合いに、奈々子ちゃんは顔を歪ませている。だけど肉体はもう快楽に染まりきり、ピクピクといやらしい痙攣が続いていた。

奈々子「ひゃアッ♥ アアッ♥ クリちゃんっ、それ以上されたら♥ んんひゃあっ♥ ダメええッ♥」

ピクンッと背を反らして、奈々子ちゃんが快楽に悶える。

炎寿馬（奈々子ちゃん、そろそろイッチやいそうかな？ んじゃあ、このままイカせるぞッ!）

奈々子ちゃんの肉厚の尻に指をぐいっ食い込ませて捕まえ、赤々と充血する肉豆にペロペロと舌を這わせる。

奈々子「ひゃひっ!? あひんッ♥ それダメ♥ ダメえ♥ クリちゃんコリコリッ、転がされたら!? きゃうんんッ♥」

小さな悲鳴が何度も漏れ、声色も切羽詰まってくる。そんな奈々子ちゃんの表情も悦楽で歪み、堪えようのない大きな快楽の波に流されようとしていた。





「ああっ、私っ、  
サキュバスみたいになっ  
淫乱になっちゃったのおっ♡  
先輩の精子、  
たっぷり吸い取っちゃうのお！」



奈々子「先輩っ、聞こえますか？ ちゅぷちゅぷ、ぬぷぷ  
ぷっって……腰を動かすたびにエッチな音になっちゃう  
のお♡」

ニッチュニッチュと愛液と母乳が混ざり合い、チンポと繋が  
っている割れ目に白い泡をいくつも作っていた。

奈々子「あああっ……先輩、柔らかくてぬりゅぬりゅのお  
マンコにチンポじゅぽじゅぽ出し入れしてる音……にゅふ  
う、ああん♡」

感じすぎているのか呂律が回っていない奈々子ちゃんが  
可愛すぎるぜ！ 下から突き上げるたびに子宮の入り口  
が強く押し返してくる奈々子ちゃんのマンコ。

奈々子「先輩の生チンポ……にゃにゃこの赤ちゃんの部  
屋コンコンしてくるのおっ……はああんっ」





奈々子「うっ、はぁっ……先輩のおチンポさん……はぁっ♥ 気持ち良すぎて……頭溶けちゃいそうっ……はぁっ♥」

炎寿馬「奈々子ちゃん、チンポすごくいいの？ クリトリスこんなに勃起させてっ」クリトリスを親指でクリクリとこね回しながらチンポを挿挿してあげると、奈々子ちゃんが蕩けた声であえいだ。

奈々子「やぁっ……クリトリス摘ままれながら……にゅぽにゅぽされるの……大しゅきれすっ♥ ……にゅふうっ、あぁぁん」

奈々子ちゃんの卑猥な言葉に奮い勃ち、ズビュズビュと破廉恥な粘着音を聞かせるように膣道をこすりあげた。

奈々子「先輩の深い……深いの……奥まで届いて、子宮がおチンポに押されて……頭蕩けちゃいそうっ♥」



「あぁっ……先輩のドロドロした精子……子宮の奥に当たって……跳ねちゃってるのお……はぁはぁっ」







「ンふう……先輩だけイっちゃう  
なんてズルいのっ……ザーメン  
ミルクまみれのおチンポ、おっぱ  
いでモミモミしてあげるからっ！」



サキュバスナースの“献身的な看病”によって着実に俺の精力は奈々子ちゃんに吸われていった。

奈々子「奈々子の愛撫で先輩すごく甘えた声出しちゃってる♥ ちゅる、ちゅ、ちゅぶぶぶっ♥」

あたりまえだろうっ！ そんなおっぱいとカワイイ口でペロペロされたら声が出てしまうのは真理である。俺はささやかな抵抗をサキュバスに試みるべく奈々子ちゃんの股間のあたりを足親指でグリグリいじってみた。

奈々子「やぁん……先輩、足の親指……奈々子のクリトリスいじっちゃ……ダメなのっ……あぁんっ」

パンストの上からでもクリトリスの当りがぶくくらと膨らんでいるのがわかる。

奈々子「あぁんっ、やぁん、チンポの先っぽ、乳首に擦れて……電気走っちゃうのお♥」



「んひゃあァッ!? おチンポっ、  
おっぱいをグリグリ押し退けてっ、  
あぁッ、奥まできてますッ！」

豊満な乳肉の狭間に陰茎を差し込んだ瞬間、みっちりとし肌が吸い付いてきた。

奈々子「はわわッ!? あぁんっ、せつ、先輩のおチンポが、おっぱいにの間に刺さって……ッ!？」

乳にヤケドするような熱さと硬い感触を覚えた奈々子ちゃんが、驚きとの声とともに蕩けた溜め息を吐く。膣内に俺の性器を受け入れたと錯覚でもしたのか、腰をピクピクと淫靡に踊らせていた。

炎寿馬「奈々子ちゃんっ。次はおっぱいにチンポを挟んで、激しく特訓するぞ!」

奈々子「はっ、はい……! あぁん! お願いしますっ、先輩っ」

これから凶暴な肉根で乳房を犯されるというのに、後輩は目を潤ませて頷いた。







美桜「じゃっ、じゃあ出して♥ 精液っ、ああンッ♥ おマンコの奥につ、ビュルビュルきてえッ♥ あなたの精液、私のおマンコで調べますからア♥」

美桜さんは官能に身震いしながら、俺の子種を求めてきた。採血ならぬ採精のはずだが、後輩の母親は純粹に、淫樂だけを欲して乱れていた。

炎寿馬「遠慮なくイキますよ！ マンコの奥に……ぐっ、中出し！」

美桜「きてッ、きてえッ♥ 精液もらいながらっ、おマンコイクのッ♥ あああっ、中出しでイクウ♥」

奈々子「お母ひやまと一緒に……っ、私もオ♥ イクッ♥ んんっ、先輩の舌れ、イキましゅ♥ ひゃああっ、せんばああイッ♥」

脳内を蕩かす蜜汁と母乳を吸いながら、奈々子ちゃんの尻穴もペロペロと舐め回す。同時に、狭まる肉壁をゴリゴリと押し返し、美桜さんの膣奥をズコズコと突き上げた。

美桜「あはァん♥ おチンポダメ♥ おマンコダメえ♥ 子宮まで突かれてっ、アアアっ、イッちゃう♥ イクラッ♥ 中出ししてえッ♥」

奈々子「おマンコもアススもっ、先輩にペロペロされへえッ、んへああっ、イク♥ ひゃああっ、クリトリスもイキましゅウッ♥」

西園寺親子はブルブルと揺らした乳から、一際大量の母乳をビュビュッと噴き上げる。そして示し合わせたかのように、二人ともが下半身をカクカクと淫猥にのたくらせた。

「イキましゅイグううウッ♥先輩におマンコいじられるのっ、たまらなくへえっ、イキ過ぎひやいます♥ふえアアアッ!!」





学園の校則と秩序を守るScup風紀委員

# 水瀬 摩耶

Maya Minase [CV: 朝香ナツ]

身長: 164cm

スリーサイズ: B117 / W58 / H91

能力: 透視念写 Lv3

副作用: 使いすぎるとスカート

またはパンティが消失する

校則違反の常習犯である炎  
寿馬をロックオンしている  
風紀委員。異性に奥手で淫語な  
ども免疫はないが、炎寿馬の  
ことを好きすぎるがゆえに“持ち  
物検査”という名目で彼に触れ  
ては胸をドキドキさせている。  
能力を増幅する専用スーツのデ  
ザインがあまりにもハレンチなこ  
とを気にしている。

「爆発するのは、  
あんたの脳内だけで充分だわ」

## FACE COLLECTION



制服



制服 (スカート無)



スーツ



スーツ (淫紋)



水着



裸





「きもひいいっ、きもひいいっ、デカちゃんぽっ、おマンコの中れ暴れてうのおおおっ!!」

摩耶「ああんっ! 太くて長いつ、デカちゃんぽれっ、おマンコっ、おマンコイカしてええええ!!」

炎寿馬「っ……」

恥じらいが完全になくなったのが自然と反映されているのか、膣が容赦なく締め付けてくる。

摩耶「あっ、あっ、あっ、あっ! いいっ、いいのおおおっ!!」

俺に抱きついている腕にも、かなりの力が入っていた。

摩耶「ちんぽっ、デカちんぽにっ、おマンコ犯しやえてうのおおおっ!!」

炎寿馬「く……」

締め付けが強すぎて、急速に快感が高まってくる。

摩耶「きもひいいいいっ! きもひいいいいっ! おかひくらっちゃうのおおおっ!!」

炎寿馬「ヤバイ……これ……」

摩耶「はやくっい、いまっ、なからひっ、ザーメンなからひいいいいいいっ!!」

快感の波が、津波のように押し寄せ始めた。

炎寿馬「摩耶……イキそう」

摩耶「んああっ! らしてっ! いっぱあいっ! おマンコいっぱいにっ、なからひしてええええ!!」







「ひゃんっ! んんっ、こんな……んんっ……  
筆の使い方、んあっ、間違ってる……やめて……はああんっ」



**摩耶** (何よこれ……クリトリス……筆でさわさわ撫でられるの、超気持ちいいじゃない……)

**炎寿馬** 「ん〜? 筆の先っぽがパサパサで開いてたのに、綺麗に丸くなってきたな、何でだろう？」

筆を動かしつつ摩耶の身体へ視線を移すと、張りのあるおっぱいが小刻みに震えていた。

**摩耶** 「んんっ……わざとらしいこと……言わないでよ……あふう」

**炎寿馬** 「なんかおっぱいも触って欲しそうな感じがするんだけど、触ってもいい？」

**摩耶** 「だ、だめ……んんっ……」

あと2、3センチの所で指をわしわし動かして、臨戦態勢に入っていた。

**炎寿馬** 「何で？」

大きさの割にしっかり弾力がありそうに見える……それに、陥没していた乳首も勃起して立派に隆起していた。

**炎寿馬** 「超触りたいんだけど」

**摩耶** 「あふっ……今は、んんっ……美術の時間よ……あくう」





「ああんっ!もうっ、もうらめらってばあ!  
きもひいいのっらめえええっ!!」

摩耶「あふっ……らめえ……ちんぽお……うごかひちや、らめえ……」

炎寿馬「ひとりでイクなんですぞいぞ」

摩耶「らってえ、んくっ、だからっ、ちんぽがっ、んんっ」

動き続けていると、キュッと膣壁の締め付けが戻ってきた。

摩耶「も、もうっ、動いたらっ、あっ、やめっ、んんっ」

摩耶の身体に力が戻ってきて、再びパンパンと打ち付ける音が鳴り始める。

摩耶「んんっ! ああっ、イッてっ、しゅぐなのにつ、またっ、きもひよくなってきたあああっ!!」

炎寿馬「自然とお尻を押し付けてるぞ……」

よりペニスが膣奥へ入るよう、引いて押してを繰り返す動きだった。

摩耶「あああんっ! らってえっ、こうひた方が、きもひいいんらもおおんんっ!!」

摩耶が主導で動いているのかと錯覚するくらい、激しい動きだった。

摩耶「んあっ! もうっ、きもひよくなってきたっ、またっ、イキシようっ、おマンコイキシようらのおおおっ!!」







摩耶「ああっ……こ、こんなの……絶対……感じちゃうっ♥!!」

下から見上げると、ボリュームのあるおっぱいの向こうに顔が覗いているのが見える。

摩耶「はあっ♥ はあっ♥ はあっ♥ はあっ♥ ……んふうっ……あっ♥ あっ♥ あああっ!!」

炎寿馬「なんだ、どうした? もう息が上がってきてるようだが?」

摩耶「らめえっ……敏感なところに当たって……頭が……ぼおーとして来ちゃうっ……はあんっ!!」

俺の動きに釣られて腰を振る摩耶。密着した龟头がパンストマンコで擦られ、まるで素股である。

炎寿馬「風紀委員のくせに何だよその腰づかいっ、公序良俗に反してるぞっ」

摩耶「龟头の先っぽが……ちょうどクリトリスに……当たって……んんふうっ♥ んんンんっ♥」

炎寿馬「はあっ、はあっ……くっついてるところが濡れて熱くなってるぞ!? 風紀委員がそんなことでもいいと思ってるのか?」

摩耶「はあんっ……あんたのチンポ、クリに擦れて……おまんコの風紀……乱れちゃうのっ……あああっ!!」

摩耶「はあはあ……アイツのチンポ……割れ目に食い込んで来ちゃうっ♥ やあん♥」



「な、なんなのコレ、  
こんな検査…… 変態過ぎ  
てるわっ……ああんっ」







「あああつ……  
ショリショリ……いやあ……  
はあん……ンンンっ！」

**摩耶** (いやあ……みんなの前で……私、ショリショリされてる……はあはあ)

怖いのか、俺が言った通りにおとなしくしている水瀬。しかしアナルに加えられる刺激には耐えきれないようで、ビクビクと身体を小刻みに震わせている。

**摩耶** 「はあはあっ……お尻の……器具……抜いで……お願い……こんなの……らめなのぉ」 (あああっ……お尻……何コレ……こんなのっ!? お尻熱くなってくるのっ!)

**炎寿馬** 「お尻も感じる変態風紀委員かよっ! こまった風紀委員だなっ!」

毛を剃られながらビクビクとお尻を跳ねさせる姿が最高にエロすぎるんですが。ゾリゾリと毛を剃ると、きめ細かい肌色の面積が大きくなってきた。その中央がバッキリと左右に割れているのがたまらん。

**摩耶** 「ひいっ……はあはあはあ……お願い……もう許して……ああああっ!!」

アナルのオモチャを入れたり出したりしてやると、水瀬は泣きそうな顔で懇願してきた。

**摩耶** 「あん……あ、ああっ……んふう……ンンっ……も、もう……いいでしょ……ああっ!」 (ああああっ……お尻からビリビリくるのおおっ♡)





058



「な、何でもないわよ。こういうのも、たまにはいいかなって思っただけよ」



ホースの口を指先で押さえた時のように、ぶしゃっと勢よく白濁液が放たれた。

炎寿馬「はあはあはあ……」

摩耶「あふっ……んあっ……」

摩耶の顔だけでなく、制服にまで大量の精液が飛んでしまった。

摩耶「ちんぽ汁……すごい量……んふっ」

炎寿馬「それだけ、気持ち、良かった……はあはあはあ」

摩耶「口の中にも……いっぱい……」

俺の顔を見て口角を上げたかと思うと、摩耶は口を閉じた。

摩耶「……ごくん。あふっ、喉に絡みつく感じがする……」

炎寿馬「摩耶……」

摩耶「でも、嫌いじゃないわ……この濃くて苦みのある味」

炎寿馬「そ、そうか」

摩耶「それにしても……いつもいっぱい出るわね」

精液まみれの胸に視線を落として、言葉を続ける。

摩耶「これだけの量を絞り出したかと思うと、何だか嬉しくなるわ」

そう言うと、摩耶は楽しそうに目を細めた。

悦子「あああっ……おおチンポから……オシッコでてるみたいに……ザーメンがびゅーってでてゆのおつ、はああン♥」

炎寿馬「ぐうっ、うああ……っ、すげえ……吸い取られるっ！子宮が精液、吸ってる……ぐう、うう、うおおお……っ！」

激しい射精が、締め付けと吸い付きをチンポが覆う。射精の勢いが数割増しになり、快感が数倍に感じられてしまう。

摩耶「ああっ……精液っ来てるううっ……子宮の中にあんたの……子種がたっぷり染みこんじゃうううっ♥ あああンっ！」

悦子「はあはあ……んふう♥ ……はあん♥」

俺の絶頂感が空間そのものを支配していく。膣で精液を受け止める摩耶も、その横でマンコをいじられる悦子さんが、同時にイッてしまったらしい。巨大な乳房がこれまでにないほど強烈に、小刻みに揺れ、勃起乳首から白濁乳汁を射精するように溢れ出させている。

(ああっ……すごい……チンポが一番欲しいところに当たって……あはあん♥ 超気持ちイいのっ♥)







実家が銭湯を営んでいる人懐っこいMcup下級生

# 湯谷 ひなた

Hinata Yutani [CV: 雪村とあ]

身長: 156cm

スリーサイズ: B100 / W55 / H88

能力: リキッドコントロール (液体制御) Lv3

副作用: 乳首が発情して勃起

「ふわあぁ……あ、あのっ  
先輩、そんな真面目な顔で  
私のおっぱいを見て……  
やめてください……  
さすがに、照れちゃいます」

+ 唾瑠女学園エクストリーム水泳部に所属する、明るく気さくな炎寿馬の後輩。恥ずかしがり屋だが、恋愛では猪突猛進する積極的なタイプで、炎寿馬のおっぱいスキンシップも、困ってはいるが嫌がってはいない。幼い頃、陥没乳首を出そうとして、気持ち良くなってしまったことがある。



## FACE COLLECTION



制服



スーツ



水着



部活



裸





(ふええええ!! ど、どうして水着がズレて——  
あ、あッ、それに、おっぱいの、刺激が……またっ)



**ひなた** (はあ、あ、さっきと感触が違う? 直接、触れられてるような……ああ、はあ、どうして変わってるのです……?)

ほおおお! これがひなたちゃんのおっぱい! そしてその感触! 頼まれて数回バストアップマッサージをしたけど、いつも水着の上からだったからわからなかったけれど……。こんな凶悪な物体が、水着の中に収まっていたなんて、想像以上の収穫だ!

**炎寿馬** (しかも、陥没乳首とは嬉しいサプライズ……!)

ああ、陥没乳首とは嬉しいサプライズだ! 大事なコトは反芻する、それが出来る男!

**ひなた** 「あ、あひや……ん、んふあ……」。 (やあ、声が……声が、漏れてしまいます……あ、んふあ……バストアップマッサージの時は、我慢できたのに……っ)

**炎寿馬** (ふふ、明るく元気で人懐っこいひなたちゃんも、乳首は恥ずかしがり屋か?)

思わずそんなゲスなことを思ってしまうほど、慎ましい乳首だった。もちろん、ご挨拶したいに決まっている。ぷっくりとした乳輪を指先で掴み、擦り合わせるように搾り出そうと試みる。

**ひなた** (んふあ!? え、え、えっ? どうして、先っぽがネジネジしてるの? やあ……私、おっぱい出ちゃいそうなんですか?)





「あ、んふあ……あああ、う、あああ……出て……まだ、精子、どくどく……っ、子宮、届いて……あああ……」



ひなた「ん、んふう——！ ん、んはあ、んちゅぶ、うん、先輩のキスで、わらひ、スイッチ入っちゃいまふ……んく、んふうっ!!」もうそれは、特訓を越えた快楽をむさぼるような動きだった。けれど、それは確実に快感を重ね、すぐに絶頂を呼び寄せてしまう。

ひなた「んふあ、ああ、あひい、んんふあああ！ んひい、んひい、あああ、先輩、先輩、先輩のおチンポ、しゅごいとこの、当たる！ ああ、あああ、ああっ、また凄いのきちゃう!!! くりゅ、くりゅ——ああ、先輩おチンポにパコパコされて、いきゅう!!」

炎寿馬「ああ、俺も、また出る！ 出すよ、このエッチなおマンコに!!」

ひなた「はひ！ はひい！ だひて、くりゃはいっ！ 先輩に目覚めさせられた、エッチなひなたおマンコにっ！ くりゃはいっ！ んふ、あ、あああ、イクっ、イキ、ま、すう、わら、わらひもう——んんんんんんんんんんん!! ふああああ——！ あ、あ、あ、あ、あっ……出てるうう!! 水の中でも、ハッキリわかる、すごい射精ですううっ!!」

再びひなたちゃんのおマンコの膣内で、奥に押しつけたチンポから精子を注ぎ込む。やべえ、おマンコ締めすぎだろっ……あああ、ひなたちゃんも、イキまくって足ピン状態だしっ!





「は、はひっ——んはあ、ああ、熱いの、  
で、わらひの中、いっぱい……んう、子宮が  
たふたふに……なってます……」



ひなた「んふああああ！ ああ、そんな、おチンポ押しつけながら、パコパコしちゃ、らめ、れふう！ 気持ちいい、いいのおっ！ はあ、ああ、子宮、降りてます、完全に、先輩のおチンポに降参して、おりて、きちゃって、まひゅ、んんっ！ あ、ああ、そのま、いっぱい、激しく、して、くりやはい、ああ、チンポ、おチンポ、で、イク、イキまひゅ——んんっ！」  
腰に集まっていた甘い予感が、今にもあふれ出さんとするので——ラストスパートだ！

ひなた「あ、ああ、しゅごい、こんなの、はじめて、ですっ！ ドキドキして、あたま、真っ白で、ああ、にゃんも、考えられにやいっ。おチンポっ、先輩のおチンポ以外、もう、全部溶けちゃって……ああ、びゅくびゅく、出してください、先輩！ 先輩！ わ、わらひ、もう、限界っ。わらひのおマンコもう、ダメおマンコになっちゃって——あ、ああ、あああああああ！ んひ——!!♥ んあ、はあ、あああああ——————!!♥」  
腰のしびれが爆ぜ、彼女の腔内にビュービューと白濁を注ぎ込む。





「この、びゅくびゅくって、すごく、欲しかったん、です……  
ンンはあつ！ ああ、ああ、ああ、気持ちいい……でしゅ……」

ひなた「はひっ！ もう、準備できて、ましゅ、からっ！ いつでも、私の、おマンコに、びゅっびゅって、出してっ、くらはいっ！ わ、わたひも、ン、んはあ、もう、らめ、来ちゃいます、ああ、早い、早い、こんな、もっとしたいのに——ンンン!!」

くおおお、なんて締め付け！ほんと、ひなたちゃんのおマンコは花丸おマンコだなあっ!!

炎寿馬「いくよ、ひなたちゃんっ！ 俺だけの秘密の場所に、白いのぶっかけるからね！」

ひなた「あ、あ、あああ、ンう、んふあ、はい、来て、出して、くだひゃい、先輩っ、わらひもう——んん、ああああああ!!」

ひなた「ふあ——あ、ああああっ！ ああ、出て——ますう、おマンコに、いっぱい、イクイクイクイク、イクううううう！」腰を突き出し、先端で子宮を押しつぶしかねない勢いで押しつけ、激しく射精する。おおお、管の残りも全部、膣内に吸い取られるみたいで……気持ちいいっ！

ひなた「はあーっ、はあ……あ、ああ、出て……んんっ！ しゅご、あ、まだビクって……あ、ひゃ、んく、出てりゅ——っ」





# 「んふ、んちゅ……相変わらず、逞しいおチンポです…… ほら、先輩、見えますか？ 目の前のおマンコ、もうぐっしょりですよ」

ひなた「あひゃん——ン！ んふあ、ああ、あああッ！ 先輩の舌、き、きちゃったッ！ ああ、素敵、ですうッ！」

炎寿馬「ああ、このおマンコも、尻も、太ももも……全部全部、舐め回してやるからッ！ 覚悟しろおッ！」

ひなた「ああ、ひゃ、ひゃんッ！ はい、はい——ッ！ ひなたの、全身、なめ回して欲しいです……ッ、ン、んふ、んふうッ！」

ひなたちゃん、本当に嬉しそうだな……ちよっと太もも撫でただけで、お汁がドバッと溢れてきたし。口がもうベトベトになってしまったが、こんな欲しがってるおマンコを前にしたらどうでもいい。今も、目の前で『来て来て♪』と、ヒクついてて、エツツツツツツッロ！

ひなた「ん、んひゃん——先輩、しょこ、あああ、おマンコ、ダラダラよだれ垂らしてしゅみましえん、でもでも、とまりや、なくてッ！ はあ、ああ、先輩、先輩、もっと、して、してくだひゃいっ、んひ、んひいッ！」



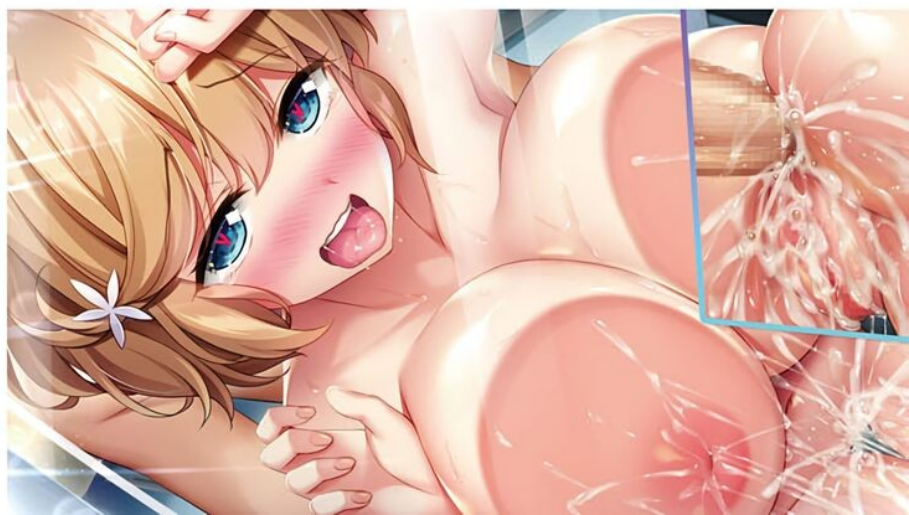
「お尻で、幸せになっちゃいました……はふ、  
んふあ……こんな、全身ベチョベチョに  
なるまで、気持ち良くなっちゃった……」

ひなた「うん、うんッ！ お願い、しまふ、あああッ！ このおチンポで、おチンポ！ おチンポで、ビュクビュク注いでくださいッ！ このまま、ひなたの、イキそうなケツマンコに、トドメの射精、して、くりゃはいッ！ 私も、イカせて、くちやはいんンッ！」

炎寿馬「ああ、一緒にイこう、ひなたちゃんっッッ！」

ペニスを腸壁に押しつけ、更に白濁を熱く蕩けそうな奥へと注ぎ込んでいく。

ひなた「んひゃ——！ あ、あ、あん——はあ、ああああ……ッ！ 来てる、きてます、あああ、しゅご、おちんちんしゅごいッ！ んふあ……ああ、やあ、らめ……これ、射精、気持ちいい……お尻に出されるの、嬉しくて、やあ、だめ、幸せになっちゃいますッ！」





うっとりしながら、様々な汁まみれのおっぱいを、がんばって動かしてチンポを抜くひなたちゃん。とても嬉しそうその顔に、ちょっと任せて見守ることにした。

**ひなた**「ほんと……はあ、ああ、おチンポビクビクって、イッたから震えてで……可愛いわ……ん、ほんと、可愛いおチンポ……。ああ……もっともっと、可愛がってあげたいでしゅ……ん、んちゅっ♪ んぶ、んちゅりゅ……ちゅりゅりゅっ！」

**炎寿馬**「ひなたちゃん……っ？」

おもむろに唇を近づけ、優しく口で愛撫を始めるひなたちゃん。それは先程までの激しさはない、慈愛に満ちた動きだった。

**ひなた**「んちゅう、べろ……ふあい……ンンふう、んちゅぶ、んぶんぶっ！ んれろ、おチンポ、精液の味がしますね……。ちょっと苦くて、んぶ、昂奮しちゃう味です……んん、んふあ、あふ、んぶ……ずっと、舐めちゃいそうになります……」



「んう……はあ、先輩……わらひ、先輩が感じてるのが嬉しくて……ほら、見てください、乳首が勃っちゃいました……」



「はい、はいっ♪ いっぱい、コンコンしてくりゃはいっ！ 子宮、ずっと落ちっぱなしで、孕む準備できちゃってまひゅからあ！」

**ひなた**「しゅ、しゅごい、れふ、あああ！ こんな、激しいピストン、ベッドも、壊れちゃいまひゅっ！ ああああっ！ あひ、あひい……んん！ もっと、もっと一番奥まで、おチンポでおマンコ犯してくださいっ！ あひいっ！」  
何度も膣奥を叩いていると、引き抜く時に膣をより強くしめてチンポを喜ばせてくるひなたちゃん。腰を打ち付ける度に、おっぱいは激しく揺れ、部屋中に母乳をまき散らす。

**炎寿馬**「母乳も、ヨダレも、おマンコの本気汁もっ！ だらしく溢れさせて、エッチで可愛いよ！」

**ひなた**「あひ……んう、んう！ はい、エッチれす。先輩の、おチンポに、負けて、子宮口開きっぱなしの、先輩専用おマンコれすうっ！」

くっ……アプリの効果か？ 本当に子宮口が柔らかくなって、龟头まで飲み込んだぞっ？

**炎寿馬**「くああ、なんだ、子宮がバキュームしてるみたいだ！ まさか、ひなたちゃんのスキルじゃ……!?」

**ひなた**「わ、わかりましえん、もう、なにも、考えられにやい、気持ちいい、気持ち良すぎて、あああ、バカになっちゃいまふっ！」





「はい、してません……ああ、気持ち良くしてもらうのは、この、大好きなおチンポだけって、決めてました、からあっ！」

炎寿馬「うおおお、香澄さん、今は乳首いじらないでくださいっ！」

ひなた「んふあ、あんっ！ 先輩？ おチンポ、膨らんで……やあん、はあ、気持ちイイ、もっと膣内、おチンポで擦ってくださいっ」

長いお預けですっかりできあがってるのか、ひなたちゃんが髪を振り乱し悶える。おマンコは香澄さんとは違って、ギュウギュウと鮮烈に締め付けてきて、俺を追いつめていく。

炎寿馬「くう……ひなたちゃん、はあ、もっとしたいけど……そろそろ、限界、かもっ！」

ひなた「ああ、いいですよお……はあ、ああああ！ もうちょっとな、私も、ああ、イキそう、ですからあ……ああっ！」

香澄「ああん、ま、待って、私も……あはあ、彼氏君のおチンポちゃんでききたいわあ……あん♪」

ひなた「らめ、らめえ〜！ 先輩の、おチンポでイクのは、わらひだけ、なんらからっ！ ああ、ママはだめえ、ンンン！」

香澄「んふ♪ いいじゃない……親子で仲良く、おチンポちゃんシェアシェア♪ ほら、そろそろ交替じゃない？」







カナヅチで水遁の術が使えないPcupくノー

# 御堂 楓

Kaede Mido [CV: 結城ほのか]

身長: 165cm

スリーサイズ: B114 / W56 / H93

能力: ファイアスターター (念火能力) Lv4

副作用: お尻に強い刺激が欲しくなってしまう

**明** るく真面目で、同級生はもちろん下級生からも慕われている先輩。料理や裁縫が得意で、水泳は苦手。女子力は高いものの、炎寿馬にお姉さんマウントを取ろうとすると、ことごとく失敗する。放課後は、ウェイトレスが全員水着姿で接客するファミレスでアルバイトをしていることが多い。

「初見はちょっとびっくりするかもだけど、食べてみると意外と美味しいんだよ♪」



制服

スーツ

水着

ウェイトレス

私服

## FACE COLLECTION







「はひいっ、吸って舐めての繰り返し♡  
んあっ、はあん、がっついちゃって、  
お行儀わるいんだからあっ♡」

楓「お待たせ致しました♪ ご注文のティクピ・タピオカミルクです」

炎寿馬「ちゅぶっ……ンン……これが噂のタピオカか……ちゅぶちゅぶ……れろれお」

楓「ああンっ……下城君っ……タピオカおいしい？」

炎寿馬「楓さんのタピオカすごくクニクニして食感最高だよ」

楓「もうっ……ンンンっ……んふう」

両手でおっぱいの感触をしっかりと感じながら、目の前に差し出された乳首に無心でしゃぶりつく。

楓「うふふっ、まるでおっきな赤ちゃんね♡ きゃっ♡ あんっ！ 激し……♡」

谷間から溢れて勢い余った精液が、楓さんの口から外れて顔にかかり、あちこちに張り付いていく。

楓「ごきゅっ、ごきゅっ、んんっ、ハアハア……ザーメンと母乳れ、おぼ、れ……♡ ふぐう、うぐ……ちゅるる……ンふっ♡」  
母乳も勢いよく乳首から噴射されて、空中に甘い香りをばらまいている。精液と母乳でべったりの楓さんは、うっとりとして表情を緩ませながら、頑張って呼吸していた。母乳もそうだが、射精も信じられないくらい持続して、視界がふらついてくる。

炎寿馬「ハア。射精が止まらないぞ……ふう……ふう……なんというおっぱいか」

楓「んぶっ、濃いザーメン……んぶっ、ンン。グチュウ♡ あっ、ひああンッ！ ンンン……んあっ、お……うっ、はひっ♡」  
たっぷりと精液を飲み、喉を鳴らしては、表情を引きつらせて視線を泳がせている。2人の体液が充満した谷間から、泡立った白濁がこぼれるのと一緒に、ねっとりとした熱気が辺りに広がった。

「お前なんか絶対に屈したりしないんだからあ……♡ はひあっ♡ ンンンッ、んぐ、んぐっ♡」  
うちゅっ♡♡♡







「おチンポとザーメンで子宮まれ  
犯されながら感じちゃつれるのおお  
ひっ、あっ、んあっ♡ ひぐうっ♡」

楓「はぁあんっ、うんッッ！ 射精チンポで  
マンコがパンパン♡ イクのとまんらないいい  
……ひぐっ♡ んおっ♡ あっ、あぁんッッ  
♡」

口約どおり、玉の中身を空っぽにするつもりで  
ピストンを続け、刺激が途切れないようにす  
る。自分でもどれだけ興奮してるんだと思っ  
てしまうくらい、すごいっぱい出る。

楓「ハアッハアッ！ あぁあ、ううう、うっ♡  
んひい、ふおっ♡ あっ♡ ハッ……ハッ  
……はううっ♡」

ドクンッと射精すると、少し遅れて膣壁がギュ  
ッと先端を捉えて揉んでくれる。チンポをいつ  
までも悦ばせ続けてくれる。

楓「もお……と、とんじやってるよお……♡  
あははあ、ううう……身体中がふわふわあつれ  
……はひんっ♡」

しっかり抱えてないとこのまま崩れてしまいそ  
うなくらい、力が抜けてしまった楓さん。俺はしっ  
かりと支えながら、射精が止まってもチンポを  
動かし続ける。

楓「やっ！ あぁあ、狂ううう、おチンポとザー  
メンで狂っちゃううう……ひあっ、ああん♡  
あっ、あっ♡」





「子宮に響くくらい力強い、あっはあん！  
アナルがめくれちゃううう、んんッ！ ひあっ！」



楓「おチンポと擦れしゅぎれ、アナル火傷し  
ゆるうう♥ ひゃあん、あひっ、うっ、うう  
っ！ ンンッ！」

炎寿馬「音すごいな。聞こえる？」

楓「聞こえちゃってるのおっ！ やああん、  
聞いちゃらめえ♥」

アナルの密着が強すぎて、動かすたびに腸  
内から空気が押し出され、音を立ててい  
た。

炎寿馬「そういう穴なんだから、恥かしい音  
くらいもっと出していこう！」

楓「いやああ♥ ああん、あんっ、あんっ！  
はあっ、そんなああ、うぐっ、ううっ！ う  
うん♥」

激しく腰を振り出すと、水音も大きくなった。  
最初よりもずっとスメリの強くなった蠢く腸  
壁を、チンポで擦りまくる。つま先までジンジ  
ンと痺れた様子で、また大きく脚や尻を震え  
させる楓さん。

楓「アナルでイッチャう、おチンポでぐちゃぐ  
ちゃにされてイッキゅうう♥」







「はああんっ♡  
顔くっつけたまましゃべらないでええ、  
ひっ、あっ！ 口の中、  
熱いい……うっうっうっ♡」

雑巾を手放して、代わりに楓さんの尻を掴む。口を大きく開けて、マンコに周りの肉ごと吸い付いて、吸る。

楓「ひうっ、やめっ、ああん！ みんな見てるのにいい！」

炎寿馬「嫌なら本気で逃げないと。へへっ、ちゅるるっ、ちゅばっ」

いつも軽口や誘惑をしている楓さんも、いざエッチを始めると抵抗しなくなる。離すつもりはないけれど、

抵抗する素振りも感じない。口を動かして、マンコを揉むついでに舐めてやると、ブルッと尻を震わせる。

楓「おマンコ味わっちゃだめえ……うっ、ああんッ、ンッ♡ ダメ……なのにい……♡ ふああ♡」

舌にたっぷりと唾液をのせて、ワレメに押し付け舐めまわし、肉ピラの形を確かめるように動かす。唾液ごと吸ってやると、温かさやスメリの増えた液体が流れ込んでくる。







「んっ！ あっ！ ふうふう……ンッ。ちよつ、ちよつとお、そっちはパフェじゃない……ひやうっ！」

楓「くふうっ、んう、うっ！ はあはあっ！ それっ、マンゴーじゃあ……はひん、噛まないでえ！」

軽く唇で肉ピラを食んだだけだが、かなり激しく反応する。だいぶ敏感になっているようだ。太ももで俺の頭を挟んで、動きを抑えようとしてくる。柔らかな楓さんの太ももに包まれているようで逆に気持ちいい。

楓（夢中になっておまんこに吸い付いてくる。本当に食べられちゃいそうっ）

炎寿馬「はあ、ンむ。ちゆる……ちゆる……」

楓「はあっ、あっ、あっ、あぁンッ……うくっ、うンッ！ ひやらっ、あんっ、舌が入ってるう、ううンッ！」

クリームと愛液に塗れたまんこに、口をくっつけて、ふんわりと膨らんだ蜜肉に舌を這わせる。舌を力ませて、膣口を何度もつつき、愛液が溢れそうになるとそれを吸る。

楓「くひうっ、ンッ！ 困りますっ、食べ物で遊ばないでくださいい……はああっ！」

炎寿馬「おや？ こんなところにもサクランボ発見っ！ ぷっくり膨らませちゃって」

楓「ひやあぁンッ！ まっ、まつれええ、だからそこは違あぁ……あくっ、ううンッ、あぁンッ！ ンッ♥」







「溢れるうっ♡ おっぱいやおマンコから  
気持ちいいのが溢れりゅううっ♡ んひひい  
あっひひい、あっはあっ、アアアン!!」

楓「おお、おチンポっ♡ 射精しながらチンポ動いてりゅううッ♡ ハッ、ハッ、しゅごおおいしい♡ ひぎいいっ♡」

炎寿馬「マンコに吸われて、射精が止まらないよっ!!」

楓「ああん、あっはああ、ああん! あおっ、んおおっ♡ ハッ♡ ハッ♡ くっひひいッ♡」

圧迫感の高まる膣内をこじ開けて、子宮口をノックしまくる。産まれそうな感覚に襲われるのか、異様なほどに膣が伸縮してチンポを搾る。

楓「おマンコから頭までぜんぶ、幸せれ爆発すりゅううッ♡ またイクッ、子宮イクう、孕みながらイッキゅううッ! あはああ♡」

炎寿馬「楓さんっ、ぐっ、はあはあ! 俺もまた……射精るッ!!」  
腹底の熱感が治まることはなく、内部に溜まる熱汁が瀬戸際まで上り詰めて肉棒が勝手に暴れだした。

楓「まつれえッ♡ んうあああッ♡ ザーメンまつれえッ♡ 今射精されたりや、トんじやうううッ♡」





「きゃあッ！ 熱う……はあはあ。おっぱいの横にもう一個心臓があるみたい……おチンポがいっぱい震えて、濃い精液を射精してる♡」

楓「はあ。いつもいっぱい射精するよね。キミの精液の匂いが身体に染み込んだ感じがするよ」

炎寿馬「変態っぽいこと言って笑っちゃって。そうして欲しいの？」

楓「こんな匂いさせてたら、外歩けなくなっちゃう……匂いを嗅いではキミの事思い出っちゃう……♡」

想像してしまったのか。腋でチンポを挟んだまま恥じらっちゃって。楓さんのアクションと身体を見ていると、興奮は冷めない。うっとりとした様子で、自分の胸元を眺めながら、精液を触ってみたりしている。

楓「ふう……これで、特訓は終わり？」

炎寿馬「何をおっしゃいますか、楓さん。そんなワケないだろ？」



「さっきからお母さんばかり……私を忘れないでよお」

楓「お母さん、親子丼フェアなんだから。2人揃って、お客様に満足してもらわないとダメだよ」

俺にされるがままの綾夢さんを見つめて、楓さんが羨ましそうにしている。

綾夢「わかっています、わかっていますが……これはっ、お腹を突き上げられてっ、ひうっ、うう……♡」

楓「とっても激しい食べられ方……こっちにまで振動が伝わってくる……♡」

綾夢さんとの結合部に、ハリのある尻を当てながら、モジつく楓さん。マンコを自分でいじっているのも、ちらりと見えた。しっとり濡れて光を反射して美味しそうにテカっている。

綾夢「んんっ、ああっ、ああんっ、あんっ、あっ、あっ、ひっ♡ ああッ！ はあっ♡」

楓「ダメ……指じゃ物足りない……ん、はあはあ、お客さま♡ 私も冷める前にお食べください……♡」





キスでイッちゃう敏感ボディのRcupお嬢様

# 園宮 優華理

Yukari Sonomiya [CV: 榎津まお]

身長: 170cm

スリーサイズ: B116 / W57 / H92

能力: アクセルブースト (加速能力) Lv3

副作用: 性感度が覚醒しバストマッサージ  
痙攣オナニーをしなくなる

**総**資産 101 兆円を誇る巨大財閥の  
ご令嬢で、気が強く髪型とおっ  
ぱいがファビュラスな3年生の先輩。  
勝負で自分を背水の陣にまで追いこん  
だ炎寿馬を好きになってしまうが、気  
恥ずかしくて自分の気持ちを上手く言  
葉にできず、豊満な肉体を使った誘惑  
スキンシップ責めで甘えてくる。



「んふ……♪ 見たいのは試合?  
それとも私を含めた  
女の子たちのカラダかしら?」



R-CL



制服



スーツ



水着



部活



私服





「ふわあっ!!  
しゃべったら、  
熱い吐息で感じてしましますっ!!」



優華理先輩のおっぱいで顔どころか身も心も包まれて、すっかり童心に帰っていた。感じ合いながら、きままに母乳をしゃぶり続ける。

優華理(下城君……こんなに一生懸命……可愛く吸ってくれてる……ああん、可愛すぎよっ)

感じさせたいとかイカせたいとか関係なく、口が止まらない!

優華理「んん、ふうふう、ちゅぶっ……私がしてあげたいのに……はあはあ、ああ……」

うっとりとした息遣いになりながら、身体とおっぱいを震えさせる。温まって汗ばみ、乳肌も谷間もすっかり熟蒸している。

優華理「ひゃああ、あっ、あん、んんっ、はあっ、あっ、ああンッ! んっ! あああ……ああンッ!」

激しく感じてもっとおっぱいで顔面が圧迫されると、呼吸できなくなりそうだ。

優華理(ああん、おっぱいですごく感じてるっ……たまらないわっ……このまま気持ち良くなってしまったら一体どうなっちゃうのおっ!)



「あうっ……そ、そんなにっ、強く押し付けてっ……♡ 私をどうするつもりですのっ……♡」

優華理「んうっ……ううふうう……♡ や、ああん……ダメ……キスから先はあ、校則に入っていないわっ……♡」

炎寿馬「でも先輩の身体……凄く熱くなっているから。放熱したほうがいいかなと思って!」

スカートがなくなることによって、先輩の下半身の熱気が湯気のようにもわっと広がっていく。あゝ……堪らない……このムチムチパンストボディ。もうさ、なんか人妻っぽさすらあるというか。いい意味で熟してる。この下半身だけを見せられたら、学生だなんて思わないかもしれないな。

優華理「もおう、おイタして……♡ あなたもギルティなのねっ……♡ ちゅぶ……んれれっ……れっろおお……♡」







（あうっうううう…押し付けられているわっ…♡  
 突き立てられてっ…♡ はあっ…はあっ…はあっ…  
 …♡ いろんなところにいいい…♡  
 …♡）



優華理「むうふっ!♡ むっ、あっ、むうっおっ♡」

あ〜……唇の柔らかく、運動の熱っぽい吐息で湿った感じ……最高!

優華理（唇にまでっ……んうふううっ♡ あうっ……口を開くと入って来ちゃうわ……もっごっ♡ むおごっごっ♡）

ついでに他の部分もエスカレートさせて、全身の至るところにグリグリと亀頭を押し付けていく。

優華理（ひゃううう……いろんなところお……♡ あ、あう♡ 熱くて硬いモノが、たっくさんん……いっぱい♡ 押し付けられてっ……大事なところまでえっ♡）

もう下半身はグッショグッショ。汗と言うには股間周りがやけに濡れまくって日光の反射に輝いてる。俺の興奮も上がりっぱなしで、もっとももっととチンポを各所にひしめかせていった。

優華理（いやあぁンッ♡ あ、当たってるだけでも、変なのがいいいっ……どうしてっ? ぜ、全部、気持ちいいい……♡ 何度も歯を食いしばってるのにいっ……♡ 気を抜くとすぐに唇が開いてしまっで……ひゃっ、あううう……♡）





「ふぐううっ♥ わ、私のお尻のお肉でっ♥ 穴を作られてしまっている…!?  
ずっぽずっぽ通ってえ…んお♥ お尻のお肉がこねられまくって…いますわあっ…♥」

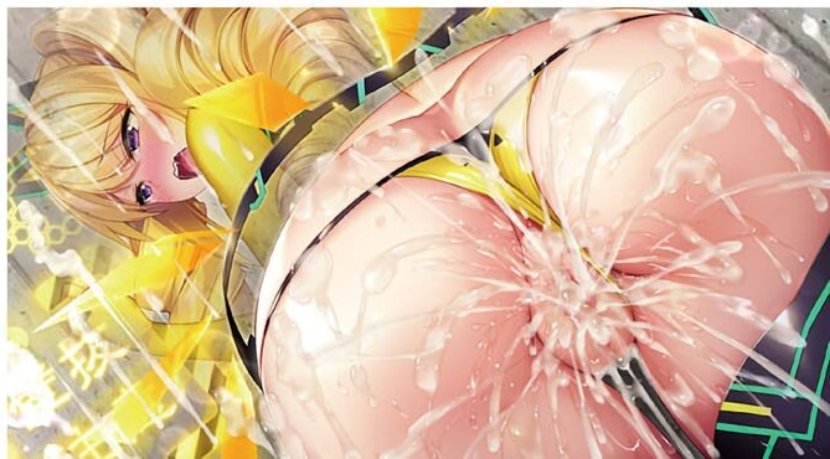
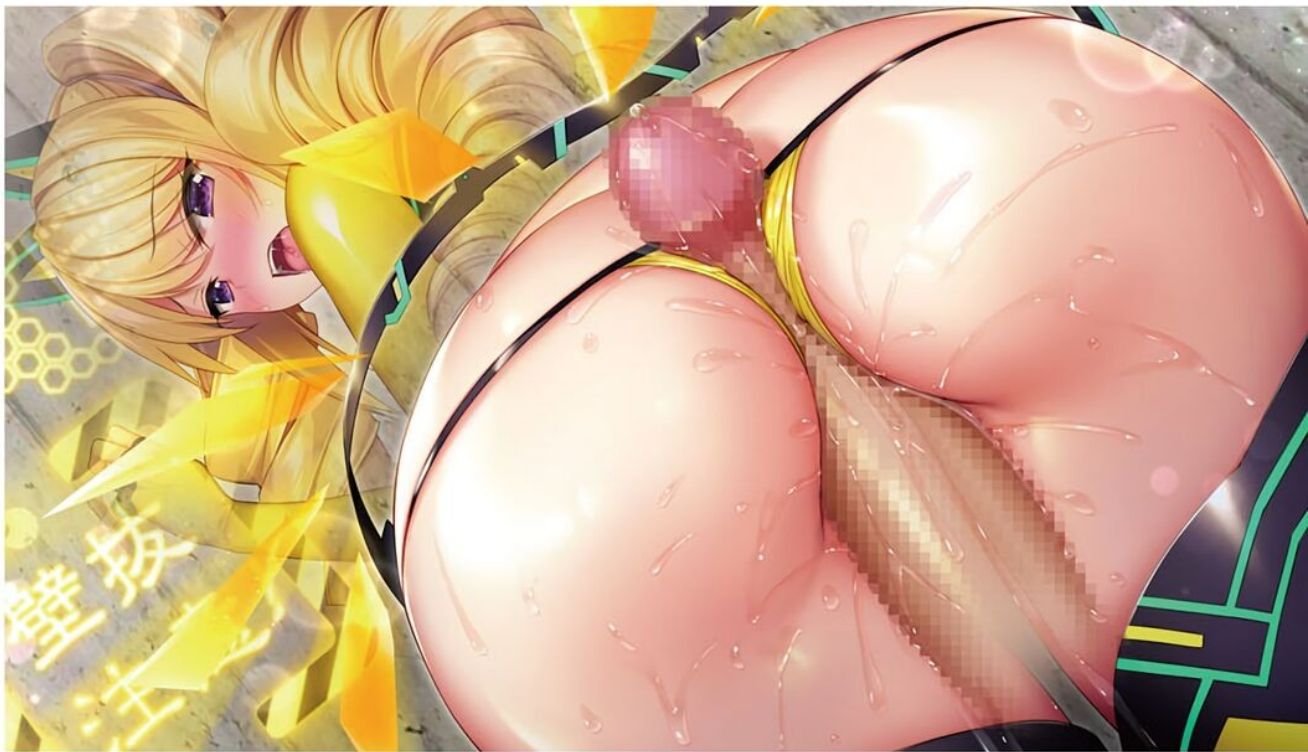
優華理「わたくしっ♥ お尻のお肉でっ♥ 谷間と割れ目でっ♥ 下城君の太いおチンポの形い……型取りしてるみたい

に、わかるのおおっ……♥」  
もうなんか、本当に挿入しなくても良さそうなくらい気持ちいいなコレ。こんなことができるデカ尻なんて限られてるからな。しっかり堪能しないと逆に失礼ってもんだ!

優華理「ふあああっ……ふうあああっ……♥ ふううっ……ンッ♥ んうっ♥ おチンポもお……♥ 私と同じくらい濡れてますのっ……♥ オスとメスのお汁うっ♥ いやらしいエッチジュースがお尻の谷間で混ざっていますのおおっ……♥」

戸惑っているような腰の動きは、いつの間にか俺の腰振りに合わせるようなものになっていた。かなり発情しつつあるけど、こちらからは挿入しない。もちろん俺自身は、本当の穴にブチ込みたい気持ちでいっぱいだけど!

優華理「あっ、あっ♥ たくましくエラを張ったカリが♥ お尻の穴にまで当たって、コスってきてええ……♥ 竿の外側で巻き付くように膨らんでいる血管もおっ……♥ はーっ♥ はーっ♥ 私のお尻のお肉をおっ♥ やわらかあ〜くっ、ほぐして来てますのおおっ……♥」





「こんなにたつくさあん……こ、これ、全部う♥ わたくしが搾ったのねっ……このデカ太い絶倫おチンポから♥」

大量に吐き出される精液を先輩は喉を鳴らして喉奥へと迎え入れていく。

優華理「もっごっぶっ♥ むおっんっぶっ♥ ぐむふうう……ンッグググ♥ ごっくつ、ゴキュキュ♥ うぶむうう……ち、ちんぽお……ちんぽほおお……♥ んごっぐぐっ……ぐっぶっふっ……んごっ……ああ……濃くて、すっごく多くてっ……んぶはあっ♥」

すぐに唇から精液があふれてきて、とうとう先輩は龟头から唇を離した。だけど射精はまだ止まらない。

優華理「はあああ♥ 飲みきれませんわっ♥ んばああ……んへあああ♥ おっ、おっおっ……♥」

開いた口、そしておっぱいと、噴きあがった精液で先輩の身体はあっという間にベッドバトのグチャドロだ。

優華理「はおおおンッ♥ げ、元気すぎですわっ♥ びゆるびゆるたっくさんのチンポミルクザーメンがあ……あはっ♥」







「おおおおおっ♡ んおおおっ♡ おチンポでっ、奥の奥までええ……子宮のお口も、その奥もおっ♡ 全部確保されてしまいますのおおっ♡」



優華理「はああうう♡ 奥まで届いてっ♡ あ、あっ♡ こっちでもキスうう……♡ 子宮のお口♡ 極太おチンポのお口がディープキスをおおっ♡ おおおっ♡ ほおおお♡ すごおおっ♡ ぶっというので広げられるのいいのおおっ♡ あ~~~~っ♡ あ~~~~っ♡」

無我夢中に腰を振る俺に突かれて、先輩の身体が軽快に跳ねる。その動きで美爆乳も弾みまくってミルクが何度も下品に飛び散りまくっていった。

優華理「あ~~~~っ♡ あ~~~~っ♡ こ、こんなにあふれてっ♡ プールサイドにわたくしいっ♡ 母乳ミルクをまき散らしていますのおおっ♡」

炎寿馬「はあっ、はあっ、はあっ！」  
揺れるたびに勝手に母乳の飛び散るおっぱい、スケベ過ぎ！ ただでさえおマンコ自体が気持ちいいのに、もっと胸も揺らしてやろうって気持ちも重なって腰が止まらねーよ！

優華理「おっ、おおおおっ♡ ほおおおおっ♡ あっ、あっ♡ 強いっ♡ 強いのおおおっ♡ 下城君のおチンポお、強いのおおおっ……♡ ぶっとくてカタくて強おいおチンポがっ♡ 私をおお……ただの肉穴みたいに変えてしまうのおお♡」







「んあああ、おマンコ悦んじやらめえ……子宮も熱くなっちゃらめえ……私の身体、もつと婦女らしくう、ふやああ……♡」

炎寿馬「先輩のマンコ、お嬢様なのにすげーメスの匂いブンブンさせてるぜ」

優華理「ひやうう、ううう、ああ、言わないれえ……恥ずかしいれすわあ♡ あううん、はひっ、あっ、あっ、はあん♡」  
気持ちいいのを否定しない。恥じらいながらも腰振りを止められないと言った状態か。こっちも腰を動かした瞬間にもう、優華理先輩の欲しがりマンコの虜だ。熱さとスメリでトロけた膣肉は、摩擦感と締め付けを感じやすくしている。

優華理「はうう、うっ、うっ、うっはああ、はひあ♡ あああん、あふう、うううん、あっ、ああ♡」

ベッドの反発すら利用して、腰を振って、優華理先輩の尻を持ち上げる。軋みは大きくなり、チンポで感じるマンコの感触も強くなり、優華理先輩の喘ぎ声も大きくなる。

優華理「あああッ、下城君のちゅき上げえ、全然違いまふうう、あああん、激しい……ひいんっ、んっはああッ!」  
大きなおっぱいを波打たせて、汗や母乳をあちこちに散らしながら、乱れていく。さりげなく腰振りを止めていないのは、無自覚だろう。





沙百合「おおおおお♡ ほっおおお♡  
これは♡ こんな♡ これほどのこってり  
濃厚なザーメンだなんてえっ♡」  
あっという間に沙百合さんの膣内を満たし、  
娘に続いて母の肉穴からも精液があふれ出  
していく。

優華理「わ、わたくしにもお……もっとお♡  
だーりんのおチンポおおおっ……もっとお精液  
っ、孕みザー汁のお情けをちょうだいいい  
っ……♡」

炎寿馬「じゃあっ！ 今度は2人にっ！」  
しっかり沙百合さんの膣内も隅々まで白濁  
汁で満たしてから肉棒を引き抜き、その矛先  
を2人へと向ける。何をされるか理解した2  
人は胸を張り――。

優華理「あ〜ンンッ♡ まだこんなにつ♡  
それにすごく濃いいい……私の全身でいた  
だかないとお……♡ ああうんっ♡ 乳首に  
おチンポ汁が絡んでっ♡ おおおおっ♡  
母乳が引きずり出されるみたいにつ♡ ああ  
出るっ♡ 出るっ♡ 出るうううーっ♡」

沙百合「あ〜ん♡ お乳がザーメンパックう  
うっ♡ んあああ……イクッ♡ お乳もイ  
クううんっ♡ 熱くて、ドロドロでっ、生  
臭いおチンポ汁うう♡ 私のお乳ミルク  
も止まらなくなっちゃうのおおっ♡」

「濃厚なコンデンスミルクザーメンにいつ♡  
ルトザーメンスイーツをお腹の奥までっ♡  
で叩き込まれていくうううううーっ♡」  
「ヨーグ  
隅々ま





ソシャゲの世界から現れたIカップのゲームキャラクター

# 伊々月 リリア

Lilia lizuki [CV: 水野七海]

身長: 148cm

スリーサイズ: B99 / W52 / H74

能力: テレポート (転移能力) Lv2

副作用: テレポートすると  
パンティが消える  
(ノーパン防止に絆創膏を使用)

元の歪みに迷い込んだ炎寿馬に「不思議なスマホ(性的な)」を渡してしまった張本人。彼がハマっているソシャゲの世界から現れ、ゲームの中と同様に炎寿馬のことをマスターと呼ぶ。細かいことは気にしないマイペースな性格だが、都合の悪いことが起こるとすぐ運営のせいにしたがる。



「はあはあ……マスターが買ってくれる服に似てたから、新体操部にしてみたの……ダメ……だった?」



## FACE COLLECTION





「らめ、なのにい……なんれ、おしりこんなにい、は、ふあああ……っ」

**リリア**「あ……ああああ……っ！ あー、これ、や……なのお……！ お腹……苦しいっ！」

流石に違和感があるらしく、リリアは苦しそうに身悶える。でも、愛液と精液でヌメったチンポは、ずっばり根元まで咥え込まれていく。

**リリア**「はー、はー！ はー、あああ……あーっ！」

チンポを咥え込む尻穴はびくびく何度も震え、腸内はひくついておマンコと違うねっとり感が伝わる。

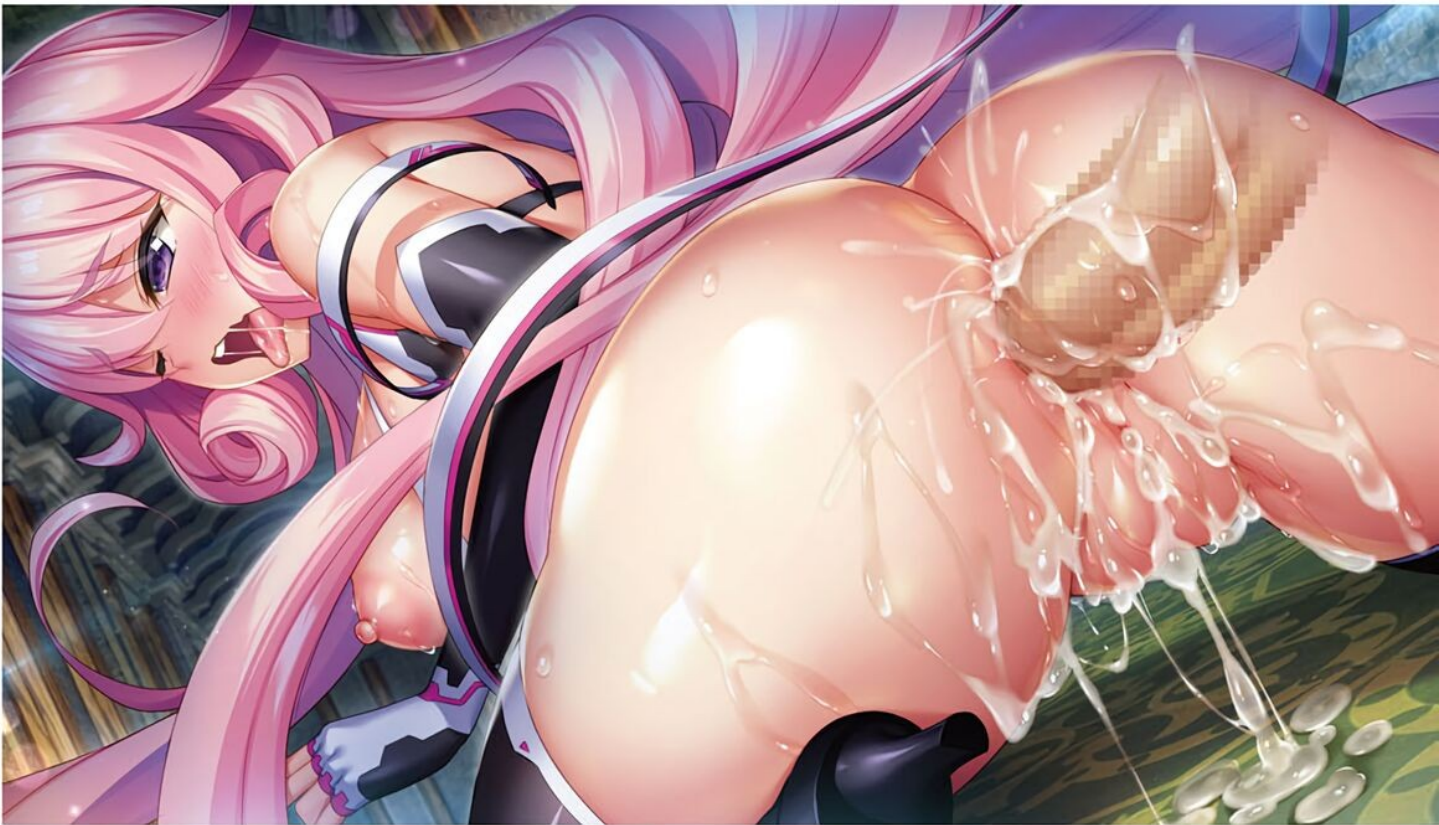
**炎寿馬**「まだ入れただけだぞ、リリア」

**リリア**「あ、ふああ……ああ、ああ、らって……お尻に、おチンポ、入ってくゆ、なんてえ……っ」

**炎寿馬**「おお、すごいなあ。チンポが何度も締め付けられるし、アナルがひくひくしてるぞ」

**リリア**「ん……んああっ！ ああああ……こ、この感じ、や、あああっ！」

尻穴にしっかりハマれたチンポの感触に、リリアが何度も震える。







リリア「ひゃ?! あ、あっ! な、なんで……なのおっ!」

レオタードごとおマンコを広げ、いわゆるくばあ状態にさせられたリリアは相当驚いているようだった。

リリア「あ……あっ、やめ、て?! や、だあ……これ、だめなの……だめえっ」

抵抗しようにもリボンが全身に絡まり動きにくくなっているらしい。そのせいで、リリアは身体をもごもご動かすのみになっている。

リリア「ん、んあああっ……あ、ふああ、あっ……! なんで、止まらないのお」

おマンコ全体を寄せたり、揉んだり、強く握ったり……。大福のようにすべすべでもっちりしている恥丘を弄っていると、興奮がどんどん高まっていく

リリア「は、あああ、はあ、はあ……だ、めなのお……こんな、の、だめなのにい……」

擦り撫で、弄られる度におマンコをひくひく反応させるリリアの吐息はどんどん荒くなる。その様子に高まり続ける興奮を抑えられず、今度はクリトリスを弾いてみる。

リリア「んひゃああっ! は……は、ひああ! そ、こだめ、なのお! あああっ!」



「んああ、ああああっ……  
やめ、やめてなの……そこ、  
ほんとに……んっ!!」



「ま、マスター……  
あんまり見られると、  
恥ずかしいです……」



鼻息を荒くしながら、まずはリリアのパンツを脱がせ……で……？ 可愛く揺れるおっぱいから視線を移動させ、むっちりしたおまんこを隠している下着を確認し……思わずマジマジ見つめてしまった。

炎寿馬「リリア……これは、絆創膏だな。いつもこんな際どい下着なのか？」

リリア「マスターのいる世界で転送スキルを使うと、何故かパンツがなくなっちゃうの」

炎寿馬「ほほう……で、なんで絆創膏？」

見つめられるだけで興奮するのか、リリアの身体は震えていた。その度におっぱいが小さく揺れ、おまんこも心なしかひくひく反応しているように見える。マン筋がギリギリ隠れるこの絶妙な絆創膏の貼り方……たまらないなあ。

リリア「パンツじゃないなら消えないから……別のアイテムで隠してゆの」

炎寿馬「そ、そうか！ ならば仕方ないな。てっきり密かに痴女設定でもあるのかと思ったぜ」

リリア「……そっちの方がいいの？ マスター」







「あ、ひゃああつ！ あ、ああつ！  
そこ、触っちゃ……うにゆううう！」

リリア「はううっ……マスター、それ反則っ……はああん」

お尻から手を伸ばしてリリアのおマンコを触てみると、もうぐっしり濡れていた。ぶにぶにまんこはトロトロに濡れていて、指先で少し触るだけでもいやらしい音が響く。

リリア「ん……んーっ！ ん、んう！ あ、あああ……そこ、やらああ、ああう！」  
指を軽く動かすだけで愛液が絡み付き、ねっとりした感触が伝わってくる。その感触を擦り付けるように指を前後に動かして、ぬるぬるの刺激を与えていく。

リリア「は、ひやうう！ ふ、あああつ！ そ、れ……らめ、ほんたらめなのお！」  
柔らかかですべすべした膨らみを指先で確かめるように何度も撫でて、時々少し奥へ進ませる。そのままぬるん！ と奥まで呑み込まれてしまいそうな指を引いて、軽くまた撫で擦ってやる。





かわいい花嫁がチンポを欲しがらる姿に興奮し腰が止まらないっ！ 止まるわけがないぜっ！ 愛液にまみれたチンポがリリアの狭い膣内を出入りするたびに、締付けが次第に大きくなっていく。リリアもいっぱい感じてるのかっ。それを証明するようにリリアはより深くつながろうとヒップを俺にクイクイと押し付けてくる。

**リリア**「んっ、は、ふああっ……あっ、んふううっ！ ふ……うう、う……っ！」  
リリアが仔猫の鳴くような声で切なくあえぐ。スチュっ、クチュっと淫らな粘着音が音を立てて膣奥を力強くえぐった。

**リリア**「ふああああっ！ ……あ、あああっ♥ ……！ い、やああ……恥ずかしい、の……ああっ♥」

**炎寿馬**「なら、やめるか？ 止めてやるぞっ」

パンパンになっていた音が止みいきなり抽挿を止める。

**リリア**「んはああっ！ あ、ああっ！ やめちゃ、だめなのぉ！ マスター、あああっ!!」

リリアが泣きそうな声でチンポの入っているお尻を自分でクイクイと押し付けてくる。

「やぁんっ……マスター♥ おっぱい強く揉みながら♥  
……パンパンされるの♥ ……大好きなのぉっ！」

「はにやあ……ましゅたーのおチンポザーメンで  
リリアとっても幸せなの……♥」



**リリア**「ひゃあああああっ!!!! あ、あああ……あ、はあああっ……！」  
高みに達した開放感とともにリリアを強く抱きしめ、一番深いところに熱い精液を注ぎ込んだ。

**リリア**「ん、ふああああっ！ ああああっ……あ……はあ♥ ……あっ……♥ いっぱい、出て、ゆう♥」

大量の精液が子宮めがけて噴き上がり膣道、子宮だけではなく結合部分にも白濁の液が溢れ滴る。中出しされたリリアは絶頂のパロメーターを表すように身体を弓のように反らす。ピクピクっと小動物のように華奢な身体を震わせぐったりと俺に体を預けきた。





**リリア**「おマンコ、くちゅくちゅされたら……  
リリアの身体、あっ！ は、ふああっ、ああ  
あっ！」

ティッシュの上からでもリリアの割れ目が、ひくひくと反応しているのがはっきりわかる。指先を何度も動かすと、リリアの腰は震えて割れ目がまた反応する。

**炎寿馬**「リリア、なんだかおマンコがヌルヌルしてきたぞ？」

**リリア**「ひゃううっ！ だ、ってえ、あ、あっ！  
マスターがえっちなこと、するからあ」

**炎寿馬**「えっちなこと？ 具体的に言ってくれないとわからないぞ」

耳元で意地悪に囁きながら、更に割れ目の上でティッシュを往復させていく。その度に割れ目のひくつきは大きくなり、奥からとろっとした感触が溢れてくるのがわかる。

**リリア**「う、ううっ……みんなの前で、おしっこ……させたりい……ひゃ、ああっ。おマンコ、くちゅくちゅしたりする……からあ、あっ！ ふ、ああっ！」



「じ、自分でできるのマスター、もう大丈夫なのお」







「ンンっ……うにゅ、リリア、  
ママの感じるとこいっぱいしってるの……  
いっぱい甘えるの……ンンっ」

**愛海**「ああっ……お願い……抜いて……  
こんなこと、ダメなお……ああっ！」

ダメだなんて言うけれど、愛海さんのお  
マンコはちんぽをがっつき喰え込み、強  
く締め付けていた。少し動かすだけでね  
っとり絡み付き、愛液をどんどん増やし  
て声を上げてくれる。

**炎寿馬**「でも、俺のチンポさっきから締  
付けばなしですよっ……最近あんまり  
してもらってないですか？」

**愛海**「そんな……ことっ……やはあっ  
……ンンっ！ ああっ……」

腰を軽く揺らすだけで愛海さんは声と身  
体を震わせて、おマンコを何度もひくつ  
かせる。少し抜き差しするだけで愛液が  
溢れる音が響いて、奥まで導くように膣  
内がひくつく。

**愛海**（リリアちゃんのコスプレをしたア  
ブナイ女の子だと思っていたのに……）

**リリア**「んっ、ちゅううっ！ ママのお  
っぱい柔らかくておいしいの♪ んっ、  
んっ……ママあ♪」





欧州から留学してきたUカップ王女様

リーシャ (リーゼシャルロ・フォン・ケーニッヒ)

R e e s h a [CV: 叶一華]

身長: 175cm

スリーサイズ: B128 / W58 / H98

能力: イーグルアイ (遠隔把握能力) Lv5

副作用: Zカップになってしまう!?

欧州にあるノイエゲルマン公国から留学してきた負けず嫌いな王女様。かなりの世間知らずだが、弱気を助け強きをくじく精神を持つ。自国では異性との接触が全く無かったため、炎寿馬との学園生活に興味津々。威風堂々としたオーラが滲み出ていて、学園内に同性の友人はほとんどいない。

「し、下城つ……  
オマエと風呂など……  
まだ少し早いのではないかつ!」

FACE COLLECTION



制服

スーツ

水着

部活

裸





「はひんッ!? んっ、あッ!?  
バカっ、擦り付けるなア……!」

リーシャは火照りきった吐息を漏らし、ブルブルと肉体を震わせた。そして、尻たぶをくいと持ち上げる。まるで陰茎を挿入してほしいと言わんばかりに、臀部を突き出してきた。

炎寿馬「おねえちゃんっ、ああ! 入っちゃう! 入れるッ! ンン!!」

そば濡れて解れている膣口に肉根をあてがい、ぐぐつと腰を前に差し出した。

リーシャ「はぐぐッ!? あっ、ぐッ、あああ!? ほっ、本当に……っ、オチンチン……おマンコにイッ!?」

ズズッと肉襲を掻き分けていくと、かなりの抵抗を感じた。しかし構わず、肉茎をズルズルと膣奥へと進めた。

リーシャ（あああ! ついにっ、入れられたあ! こいつのオチンチンでっ、私の初めて……奪われた!）

悦びを全身で表すかのように、リーシャは肉体をビクビクと小刻みに震わせた。息づかいも荒く、そこには明らかな愉悦が混じっていた。

リーシャ「ああッ! オチンチンっ、すご……ッ! 小さいはずなのにっ、おマンコいっぱいになれてる!? ぐはっ、おっきい……ッ!」





「ひゃッ!?  
ンにゃあああッ!?  
私もっ、ダメらッ!  
イクッ! イグッ!  
危険日マンコに  
生中出しされ  
へイグううッ!!」

危険日だと聞かされては、燃えないわけにはいかない。堅物で近寄りがたい王女を孕ませることができるかと思うと、興奮は最高潮に達した。

**炎寿馬**「嫌って言うなら、子宮グリグリするの、やめてもいいのか?」

**リーシャ**「そっ、しよれはらめえッ! 子宮グリグリっ、ほひッ! ひやめるのらめえッ!」

淫楽に没しているリーシャが、淫猥な懇願をしている。普段のクールな印象が消え去っている淫らなクラスメイトに、この上なく昂ぶりを感じた。

**炎寿馬**「じゃあっ、生中出しもセットだぞ! 子宮グリグリしながらっ、ザーメン出すからッ!」

膣奥から迫り出てきている子宮口を狙い、肉槍の尖った先端を容赦なくぶつける。

**リーシャ**「しっ、子宮グリグリしにゃがりやとかアッ、んふええ! 子宮に精液っ、全部入りゅ! あああっ、絶対デキひやうッ!」

妊娠を好まない発言をしつつも、リーシャは腰をくねらせて肉茎を奥まで挿入しようとしていた。膣肉もギュッと狭まり、強く肉幹に絡み付いてきた。







「うふッ、ふふふ！ 可愛いオマエを見下ろしながらセックスできるなんてえっ、ふああ!? あっ、あん！ 最っ高おッ！」

リーシャ「あひゃんッ！ ああッ、ひゃうアッ！ ぶっとなったオチンチンッ、ゴリゴリくりゅの気持ちよくへえッ、ひゃああ！ らめらァ！ ぶっくり膨らんらあ、先がッ、んぐぐッ、子宮に届ひへッ、ンンあッ！ 子宮への、リコイル感がたまらないらああッ！」

リーシャは自身でズボズボと子宮口に龟头をはめ込んで、よがる。一方の俺は、肉壁にギチギチと食い締められながら、子宮の肉口にもチュバチュバと先端を吸われ、熱い塊が上ってくるのを押さえきれない。

炎寿馬「おっ、おねえちゃん！ んんっ、おねえちゃん！」

欲望が暴発寸前になり、意識しないうちに子供口調になっていた。

リーシャ「いいぞッ！ いひいッ！ 私もイクかりや！ ンふええッ、一緒に気持ちよきゅッ、なりゅうウッ！」



「ううっ、来てるっ……オマエのチンポっ……グリグリって子宮の入り口まで……届いてるっ！」



おっぱいとおまんこを同時に責められて、リーシャは悲鳴とも嬌声ともつかぬ声で叫んだ。

リーシャ（うああっ……こんなの知らないっ……奥に、一番奥に当たって……おかしくなってしまうっ!!）

いたぶるようにおっぱいを弄くり回し、肉穴の奥まで剛直で擦り上げていく。リーシャの膣ヒダはウネウネといやらしく収縮し、龟头やカリを締め上げながら颯々とする。弾力のある子宮口に先端がぶつかるたび、ポヨンと跳ね返されるような感覚に包まれた。

リーシャ「あッ、ンンッ、はああんッ　こんなの……ああああッ！」

淫らに悶えるリーシャの膣内を掻き混ぜるように肉棒を操る。愛液が体内で攪拌される音が微かに聞こえてくる。やがて、もう我慢できないというようにリーシャは、自分から激しく腰を振り始めた。

リーシャ「ああッ、くうっ……もっと、もっと打ち込めっ……」





リーシャ「きやううッ!? おっ、オチンチンを挟んだまっ、くひあッ、胸をそんなっ、いじっひやらア……!」  
 挟み込んでいる肉竿を押し潰すかの如く揉み込むと、リーシャも甲高い声を上げる。スキルスーツに包まれた肉体をビクビクと身じろぎさせ、乳汁をピュピュッと噴いていた。  
 炎寿馬「チンポ挟んだ方が、ミルクの量増してる? やっぱ興奮したら出るんだなっ」  
 リーシャ「しっ、しらなひ……! んひアッ! 胸の間にっ、硬い感触があると思うほ、ひゃあッ、身体が熱くへ……おかしひィ!」  
 普段は毅然としているリーシャが首をふりふり、あまりの愉悅に困惑していた。

「あううッ!? そつ、そんなものを、私の胸の中に……!? くあッ、ビクビクしてる……ッ!?」



リーシャ「じゅぶっ……こんなに……固くして……ドスケベ過ぎるぞ……オマエのチンポはっ……んひゅ、ちゅぶじゅるる」

王女様から「ドスケベ」という言葉を投げられまともなヤクゾクと興奮してしまう俺。リーシャが獲物を捉えた猛獣のような瞳で俺を見つめながらチンポをしゃぶっていた。この王女様、ほんとにスケベそうにしゃぶってるぜっ! たまらんっ!

リーシャ「あああッ……嬉しくてたまらないっ……といった感じの勃起の仕方だなっ……んぐ、ちゅる、ペロペロペロ」

炎寿馬「お、おうっ……くっ」

あ、リーシャいつの間にフェラそんなにうまくなってたんだよ! リーシャが恍惚とした表情でペロペロと亀頭に舌を走らせ、時折チンポの根本あたりまで一気に飲み込んだ。

「はあん……こんな……熱いのぶっかけて……スイッチが入ってしまったぞ……はあはあ」







「ああっ……もう……んひゅっ……  
おマンコ幸せすぎて……  
しんじょうのおっ♥……はあん♥」

膣内がグイグイ締まる。これから射精しようとするチンポを最後の一滴まで搾り取ろうと膣壁が波打ってきた。

リーシャ「ああっ……しゅごいの、しゅごいの来ちゃうっ♥ ああっ♥、ああっ♥、ああっ♥ あああーっ♥♥ ああっ、おマンコすごいのおおっ!」

強く抱きしめリーシャの最奥ですべてを解き放つ。リーシャは白い身体を震わせ息を弾ませながら中出しの悦びに歓喜していた。

リーシャ「ああっ……おっぱい止まらないの……はあはあ……はうう」

炎寿馬「子宮の奥に全部出してやったぜ……リーシャっ」

リーシャ「ああああああっ……もう、らめえ……」  
頂点に達した余韻に身を震わせるリーシャ。







リーシャ「うはあっ!？」

リーシャがビクンッ、と身体を震わせた。スーツに変身した俺は今、リーシャのおっぱいをペロンとひと舐めしてやったわけだが、当然、彼女はこの状況がわかっていない。それにしてもすごい感覚だ。リーシャの身体中、どこでも自由に舐められるぞ! 圧倒的な科学力に敬礼っ!

リーシャ(な、なんだ? 今誰かに胸を舐められているような……おぞましい感触が)

リーシャは何が起こったのかわからず、キョロキョロと周りを見回しては不思議そうに首を傾げている。それにしても、ここ! と決めた部位をピンポイントで舐められるのが素晴らしいすぎる。リーシャの肌のすべすべ感、柔らかさ、温度……すべて五感で捉えることができる。最高という言葉しか浮かんでこないぞ、このアプリ!

炎寿馬「れろお……ちゅべろおっ」

リーシャ「うっあああんっ、……誰だっ、や、やめろっ……あああっ、いやあんっ」

「はあはあ……あっ、こ、この  
イヤらしく舐める  
大きな赤ちゃんのような舌使いは……  
下城かっ? はうっ!」







「ああっ……おかあひやま……もう……熱いザーメンで……  
おマンコもおっぱいも王女なのに……たくさん汚れちゃったのお♡」



ラウダ「らめえっ……ああっ……いっぱいれちゃうの……あああっ……はあはあ♡ あっ、あああっ♡」

炎寿馬「はあ……射精してるみたいになってますよ。上からも、下からも……」

リーシャ「あっ、はあはあ……ああまた……中にいっぱい……にんしんしちゃうくらい……いっぱいらの……はあはあ♡」

ビュクビュクとマンコや尻穴の中に精液を注ぎ込む度に、母娘の勃起した乳首から白濁液が噴出してしまふ。それに加えて、2つのマンコからも霧吹きのように潮がぶち撒けられている。床が豪雨の後のようにビッチャビッチャに濡れていく。

ラウダ（こんなに……いっぱい……リーシャに……いもうとが……れきちゃうかしら♡ ……はあはあ♡）

リーシャ「はあはあ……また子宮が……降りて来ちゃって……お前のチンポにあまえちゃう……だろ……はあはあ」

震えるマンコと、キュルキュルと窄まる尻穴……そしてブンブンと音を立てて揺れる巨大な乳房が、二人の絶頂の全てを伝えてくれている。







「んふああああ！ ああ、そんな、おチンポ  
押しつけながら、パコパコしちゃ、らめ、れふう！  
気持ちいい、いいのおっ♥」(ひなた)



炎寿馬「ああっ、みんなっ！ すげえいいよっ！ おマンコの奥にたっぷり  
注いでやるからなっ！」

奈々子「んはああッ？ もうらめれす！ 私っ、イク！ んひッ！ 先輩！  
先輩ッ！ んはああッ、奈々子イクっつっ！」

ひなた「んう——ッ!? んひい、ンシン！ んく、んぶはあ……はあ……あ  
ああああ!!!」

晶「あああつ、い、いいッ！ ひやはあああつ！ イクううッ！ はああん  
っ、イッちやうッ！ イッちやうう——ッ!!!」

リリア「あああッ！ ンっ！ も、らめえ！ ま、ましゅたーもいっしょによ  
っ、あつ、あつ、ああああンっ!!!!」

牝猫達全員のマンコが一斉にきゅううううっつとチンポを強くハグしてく  
る。

「しよしよっ、しよんなことありませんわっ！  
私がいやしくにんじんを欲しがるとな  
うさぎさんにお見えれしゅかつ！」(優華理)

楓「下城君をもっと気持ちよくしてあげないと、ね。んっちゅ、はあ、あむ、ん、  
ちゆるる。優華理うさぎのサクランボ、おいしそうだったし……ちゅっ♥」

めぐみ「目の前の光景が情熱的すぎて、先生もう……はあはあ、ちゅ……ち  
ゅ……くちゅ……ひゃんっ、下城君のがこんなに深く入っちゃって……羨まし  
……べろっ」

優華理先輩と繰り広げていた甘い空間に飛び込んでくる発情うさぎ。目の前  
のおいしそうなお野菜に文字通り夢中で食いつく。







「こ、これじゃ……くふう……エッチなことしか考えられない女の子に……なってしまうわ……はあっ♡……ああん♡♡」(莉音)

リーシャ「あっ、あっ、あっ、あっ、そんなに激しく……ああっ、ダメえ♡……あああっ♡」

恋乃香「んあっ、おかしくっ、おかしくっ……あふっ……なっちゃいそうだよ!!」

炎寿馬「もっとおかしくなっているんだぜっ! 恋乃香、リーシャっ! ほらっ、ほらっ!」

チンポがこすられるたびに射精感が膨れ上がり下腹の熱が急激に上昇してきた。

炎寿馬「くっ、イクぜっ!」

リーシャ「あっ、イクイク……嘘おっ……ふああああっ! イっちゃう、イっちゃううっ! ああっ、ああああっ!」

リーシャを筆頭にアプリで同時挿入していた4人のマンコが激しく収縮する。陰囊から子種を絞り出そうと膈壁が激しく波を打った。

摩耶「んくうっ、ああんっ! いいっ、きもひいい♡ おひんぽピストンれっ、イっひやうのおおおおっ!」

恋乃香「ふわっ、もうダメっ、このままっ、おマンコズボズボされてっ、イクからあああっ♡」





「はふ……皆の母乳の味としーちゃん味の味が混ざって、とっても濃くておいしいよお……あむ。ん、ぢゆるっ、れるおお……」(恋乃香)

奈々子「みんなの母乳と先輩のおツユが温かくて、はあはあ、ああ、ううう、おっぱいで感じてしまっています。はあはあっ、あっはあんッ！」

恋乃香「頭がぼおとしちゃってる。ひやっ、あっ、おチンポや乳首でおっぱいが擦れるの、とってもいいよお……んあっ、あっ、あん、んっ！んんッ！」

ひなた「私達が気持ちよくなっちゃいましたあ、はひあっ、ああっ、あうう、んっ、んっ！先輩もお……んっ！ひやあんッ♥」

炎寿馬「はは。病人相手に夢になっちゃって、皆エッチだなあ……ハハア、ううっ」

乳房で色んな方向から押さえつけられ、乳圧で締め付けられているチンポが、力強く引っ張られる。6つのおっぱいの重さが股間の上で跳ねまわり、グチョグチョと激しく水音を響かせている。

「あああっ、こんなにナカにたっぷり出すなんて……ホントに変態なんだから」(莉音)  
「はあはあっ♥ しーちゃんにいっぱい中出しされて幸せマンコなの♥」(恋乃香)



「ああン♥ 城にい……城にいにたくさん中出しされて凄く幸せなの」(晶)  
「奈々子も先輩の子種たくさんもらってしまいました……はあはあ♥」(奈々子)



「マスターの精子でナカイキ……キメちゃったの……はあはあ」(リリア)



「あっ、あっ、あっ……城にいいっ……城にいい子、身ごもって幸せだよっ」(晶)  
「はぁはぁ……先輩のチンポ……に征服されちゃった……はぁンっ♥」(奈々子)



「ドスケベおっぱいとか……言わないで……あんたのドスケベな精子で……は、  
孕んじゃったんだからっ♥♥」(摩耶)



「あぁっ……下城君の子……できちゃった……んふふふっ……あンっ♥ ソンソソっ♥  
幸せすぎてミルクが止まらないの」(楓)







「なんて粗野な触り方……くうッ、ひつ、あつ、ンンッ、はあはあ……あつ、あつ、あうンッ♥」（ラウダ）

リリンダ「はああ、おねがいっ♥ もう射精してえ♥ おマンコにあなたの精液で子宮を荡けさせて♥」

段々と踏ん張りも効かなくなり、射精欲で頭がいっぱいになっていく。あちこちから聞こえてくる俺を淫らに求める声に誘われるがままに、身体を動かす。

聖子「もう子宮が切なくて、あなたのおちんちんで思っきりイキたいんれすう、あはああ、おマンコイカせてくださあいい♥」

自ら尻を振ってチンポを悦ばせてくれたり、なすがままにヒクついたり、反応も感触もそれぞれ違って、全ていい。ここはもはや、バレーとは程遠い快感の坩堝。全員が気持ちよくなることしか考えられていない。やがて、本当の限界が訪れて、激しくチンポを搾りたてるマンコに挿入したままで、鋭い電流が脳天から全身へ流れる。

炎寿馬「皆さんのマンコ最高ですよ！ はああ、もうもたないっ」

天舞音「おちんちんがおマンコの中にみっちり詰まって、すごい擦られるの、あおっ♥ もうだめ、イクううんっ♥」

「まだまだ泳ぎ足りないわね♪ もっともっとあなたのセーシ、子宮で泳がせてちょうだいっ♪」（天舞音）  
「ううう……私は欲しがってなんかっ、きやっ!? ああッ、だッ、だめよお、拡げて見ないでえ」（香澄）



「おチンポの匂いがどんどん濃くなっています。ゴールしてもいいんですよ。ちゅう、んぢゅるうう、じゅぼッ! じゅぼッ!」（美桜）  
「あああ、イキましたっ、挿れられただけでイッてしまったのっ、ああんっ、だから、もっろやさしっ、うううんっ」（沙百合）



「んああ……新鮮なおチンポ汁美味すぎますう、もっと……おチンポもっとお……むぐむぐ。ちゅぼッ、ちゅぼッ」（悦子）



「私は……これからも永遠に……あなたの妻なのおっ……ああったっぷりザーメン来てるわあっ!」(悦子)  
「こんなに孕んじゃってるのに……腰が跳ねちゃうわっ……あああっ……」(美桜)



「早く……子宮の子にも……近いキス……あああっ……深いのお……ハァンっ!!」(ラウダ)  
「はあはあ……あなたの……ザーメンに子宮が征服されちゃったわ……あああん」(香澄)



「ああ娘の……彼氏と……妊娠結婚してしまうなんて……最低の母親だわ……っあああっ」(聖子)  
「ああっ……このガマンチンポ……素敵すぎよ……おマンコの奥に誓いのチンポキスうっ♥ あっ、あああっ♥」(綾夢)



「ああっ、他の奥様方が見てらっしゃるのに……あああああっ……あん♥ あん♥ あん♥」(沙百合)  
「結婚初夜……待ちきれなくて……いまからオナニーしちゃうのおっ♥」(愛海)





下城 絵美里

Emiri Shimojiyo

[CV: 風鈴みずす]

身長: 150cm  
スリーサイズ: B96/W52/H74

炎 寿馬が好きなゲームやアニメのキャラに嫉妬する実の妹。何かとお兄ちゃんの世話を焼きたがる。

H-cup  
Emiri  
Shimojiyo



星置 めぐみ

Megumi Hoshiaki

[CV: 月森ねね]

身長: 164cm  
スリーサイズ: B117/W58/H98

炎 寿馬のクラスを受け持つ十哩瑠女学園の女教師。優しい雰囲気を持つが快楽に流されやすい。

O-cup  
Megumi  
Hoshiaki

# Exciting Sub Ch

藤野 薫

Kaoru Fujino

[CV: ハツ橋きなこ]

身長: 165cm  
スリーサイズ: B118/W58/H88

前の学校のクラスメイトのおしとやかな母親。家がフランチャイズのデリバリーカレー屋をしている。

R-cup  
Kaoru  
Fujino



川沿 玲奈

Rena Kawazoe

[CV: 卯衣天へん]

身長: 160cm  
スリーサイズ: B117/W57/H85

炎 寿馬が通う歯科医院で働いているバブみ溢れる美人の助手。仲が良い同僚も同じくらいの爆乳の主。

U-cup  
Rena  
Kawazoe



里塚 舞

Mai Satoduka

[CV: 花宮あづま]

身長: 151cm  
スリーサイズ: B100/W53/H77

人 見知りな絵美里の友人。妹が主催する同人サークルに所属し、原稿を手伝うためよく家にやって来る。

M-cup  
Mai  
Satoduka



## 茨戸 祈子

Reiko Barato

[CV: 冬野めろん]

身長: 164cm

スリーサイズ: B115/W58/H98

十 唾瑠女学園3年生  
で、気品が高い紅  
茶会社の社長令嬢。エク  
ストリームゴルフ倶楽部  
で部長を務める。

L-cup  
Reiko  
Barato

シーンは少なくても  
印象的なキャラクター  
ばかり!!

characters

## 平岡 珠子

Tamako Hiraoka

[CV: 七瀬あかり]

身長: 161cm

スリーサイズ: B114/W57/H86

失 敗は多いが、真面目で明  
るい新人キャビンアテン  
ダント。パイロットだった父の  
影響で空に憧れている。

P-cup  
Tamako  
Hiraoka

## 伏古 かなめ

Kaname Fushiko

[CV: 宇佐美日和]

身長: 165cm

スリーサイズ: B117/W58/H88

清 楚で凛々しい十唾瑠  
女学園3年生で、エ  
クストリーム柔道部部長。  
異性に不器だが恋愛には  
興味津々。

J-cup  
Kaname  
Fushiko



## 石山 道子

Michiko Ishiyama

[CV: 冬宮あずき]

身長: 158cm

スリーサイズ: B102/W57/H89

陰 キャな自分を変える  
ため、スポーツクラブ  
でインストラクターを始め  
た前の学校のクラスメイト。

M-cup  
Michiko  
Ishiyama



## 篠路 遥香

Haruka Shinomichi

[CV: 赤月ゆむ]

身長: 171cm

スリーサイズ: B115/W58/H90

部 活のパートナー優  
華里と今以上の関  
係になりたい願望があ  
り、彼女と楽しそうに  
している炎寿馬を妬む。

Q-cup  
Haruka  
Shinomichi







ああ、くそ、気持ち良すぎて腰が浮きまくってるとか、俺の妹がエロ過ぎるんですけど！

**絵美里**「あ、んふああ、ああ、アアッ！　すごい、音、しちゃってる——んん！　お兄ちゃんのおチンチンが、ばちゅばちゅ——。こ、こんな音、エッチな漫画でしか、知らないっ！　ああ、ほんとうに、こんな音、しちゃうんですねっ！　あ、はあ——ああ、ああ、気持ちイイ、音、してるっ。お兄ちゃんのおチンチンが気持ちイイって、音、しちゃってる！」

ぎゅううううと、おマンコが締まってくる。ああもう、本当に嬉しそうな顔で、トロけやがって……！

**炎寿馬**「くう、このキツキツ妹マンコ……お兄ちゃんのおチンポで、無茶苦茶にしちゃうからなっ！」

**絵美里**「あ——うん、してっ、お兄ちゃんのおチンチン……ううん、お兄ちゃんおチンポで、いっぱい、気持ち良くひて——ああっ！　ああ、んひ、奥、奥まで——ンッ！　奥に、お兄ちゃんのおチンポ奥まで、届いてりゅ——！」



「私の、なか、いっぱいっ♪　本当に、お兄ちゃんのおチンポで、全部埋まっちゃってる……ンはあるん!!」







「んふふ……ごめんね、もう我慢できなくなっちゃったの♪」

薫「だって……ほらあ、おまんこトロトロになっちゃったから……下城君のおチンポ入れさせて♪」

いきなり押し倒されたかと思うと、薫さんはトロトロになったおまんこをチンポに押し付け始めた。亀頭の先端へ求愛するように、濡れたおまんこをぐりぐり押し付けられると堪らない気持ちになってしまう。

薫「はあはあ♪ はあ……いい、わよね？ もう入れちゃうから♪ ん……んうっ!!」

炎寿馬「うっ!!」

求愛されてひくひく反応していた亀頭が、ゆっくり腔内に進んで行く。ねっとり絡み付くように締め付けられて、カリ首まで埋まっただけなのに背中が震えて止まらない。



「舞も、舞もイクからあ、あああ、一番えっちな、中出し教えて……!!」

舞「あ——はあ、あああ、おにいちゃん、あん、そんなに激しく、らめらよお、お、おチンポ、覚え、られなく、なっひやう——ンン!!」

炎寿馬「舞ちゃんっ! すっかり子宮降りてきて、精子が欲しいって、チンポにキスしまくってるよ」

舞「ふあ……あああ、や、これ、子宮……だったの? ああ、舞、男の人に、おにいちゃんのおチンポに、子宮捧げようとしてるの?」

炎寿馬「ああ——俺も、舞ちゃんに子種をおもいきり注ぎたいって、もう限界だ……!!」

どうしようもない射精感に襲われ、頭が白熱していく。今にも、奥から熱いモノが容赦なく溢れてしまいそうだった。





「ああああ、そんなに丹念に乳首を  
いじめられたら……あ、ああ……  
手が、震えちゃう……」(玲奈)

——玲奈ちゃんと聡美さんがおっぱいを丸出しにさせて、俺の顔の上に乗けてくる。その白く、美しい4つの膨らみそれぞれを彩る小さな乳首を、俺はチュチュと音を立てて吸い付いていく。

炎寿馬「ちゅ、ちゅれろ、ねろ、れるん……」

聡美「んん、あっ、あああ……はあ……乳首、いっぱい感じちゃう……」

玲奈「ん……はあ……やだ、もう……口、もっと開けてえ……じゃないと……あ、ああ……歯のチェック、できないでしょ……?」

玲奈ちゃんと聡美さんの計4つの乳首を念入りにちゅっちゅと音を立てて吸っていく。



「あああん……つまり、こんな感じで……腰をくねらせて……あは、はあ、あああん……♪ 刺激に変化をつけることが、大切なのよ♪」(玲奈)



聡美「あああ、そんなに音立てて、私のおマンコ汁、吸られたら……あああ、鼓膜でも感じちゃう……♪」

炎寿馬「ずるるう……ゴクン……はあ、はあ……溺れちゃいそう、です……」

聡美さんは恥じらいながらも、トロトロ愛液をとめどなく溢れさせてくる。大量のマンコ汁は俺の顔全体を覆い、飲まなければ本当に呼吸ができなくなってしまうような勢いだった。

玲奈「あ、ああ……熱い塊が、子宮の入り口にぶつかってるう……あ、ああ……やだ、精液、吸ってる……子宮が妊娠したがってるう……」

炎寿馬「はあ……はあ……」

玲奈「やっ、まあ、出てる……あああ、んんう……すごいい……まだ止まらない……あああん、子宮が膨らんじやう……」

濃密な精液が次々と溢れ出して、玲奈ちゃんのおマンコ内を満たしていく。



「ぐっ！ うっ！ うあああ……メリメリ、音してる……あ、あああ……ウソッ、本当に、オチンチンが入ってる……そんな……あぐう、ひううう……」

めぐみ「ふぐうっ、あはあ……あつ、あつ、いやああ、声が、出ちゃう……どうして？ 駄目、なのに、私……先生なのに……今、授業中なのに……」背後からヒップをギューッと押しつけられ、丸い滑らかな尻肉の曲面が俺の指にいびつに歪められる——揉み心地、触れ心地、見た目……尻に関わる全てが素晴らしい！ 本当に素晴らしい……最高に美しい尻だ！ だがっ！ 尻だけで満足するほど俺は無欲な人間ではなかった。

めぐみ「あつ……やつ、駄目ええ……おっぱい、触らないでえ……見られちゃう……学生が、いっぱいいるのに……」

炎寿馬「まったくです！ 授業中だつてのに、こんなこと許せませんね！」

めぐみ「下城くん……あ、あなたがやってるんでしょ？ はあ、はあ……あああ、動かないでえ……お腹がオチンチンでいっぱい、なってる……」

炎寿馬「気持ちいいでしょう？」

めぐみ「あああ……耳で囁かないでえ……はあ、はあ……あああ、耳たぶハムハムしちゃいやああ……らめえ……お腹が、キュンキュンしちゃう……」







「はあ…はあ…はあ…はあああん、やだあ、子宮が…欲しがってるう…ああん、白球をいっぱいぶち込まれたがってるう…はあ、んん、はあああん…」

祈子「きやうう……おチンポが……おチンポが、あ、あああ……おマンコ、かき混ぜてるう……おマンコ、いい……おマンコ、感じちやいますわあ～～……」

炎寿馬「はあ……あふう……つ、続き、しますよ……まだまだ終わりませんからね！」

まだ10ホール程度だ。これからガンガンに射精する必要があるそうだった。

祈子「はあああん……お、お尻……お尻いい……広がっちゃうう～～……ひぐう、あへええ……でも、気持ち、いいですわあ……」

炎寿馬「はあ……はあ……先輩、こっちも感じちゃうだなんて……本当に肉体のポテンシャル、高めですねえ……」

先程、バーデイを決めたご褒美アイテムとして登場したアナルパイプを、先輩ったらすっかり気に入ってくれたようだ。最初は嫌がっていたけど……精液でヌルヌルに濡らした尻穴にねじ込んで、腰使いに合わせて抽挿を続けてやるとすっかり慣れてしまったらしい。

祈子「はあああん……あっちもこっちも、気持ちいいですわあ……あつ、あああ、ダメええ……また、おマンコ、イッ、イク……ん、んんあ、あはああん！」





「ふにゃあああ……!? あ、あああ、や、入って——  
指、ああ、私の中、挿入って——!! ンンウウ!!」



**かなめ**「——! あ、ああああっ、らめえ、今、そんなに、可愛いとか、言っちゃ、ダメエ……ああ、おマンコ、ダメになっちゃう……!」

**炎寿馬**「ダメになってかなめ先輩……! 俺の手で、もっとおマンコダメにして、可愛いかなめ先輩を見せてくださいっ!」

**かなめ**「ああ、だから、そんなに言っちゃ……ああ、そんなに、されたら、もっと大きいの……指じゃなくて、いっぱいチンポ出し入れしたくなっちゃうっ!!」

**炎寿馬**「わかりました——! じゃあ、いっぱいおねだりしてください!」

**かなめ**「お、おねだり、にやんで……で、できにや、そんなにの、ムリ——んん」

**炎寿馬**「じゃあ、ずっと指ですよ? いいの? おチンポじゃなくて、このまま指でイカされても」

**かなめ**「しよ、しよはあ……あ、あああ、あああっ!」

膣内で指を曲げたり、撫で回したりして、かなめ先輩の膣内に、ひとしきりローションを馴染ませていく。それはもう、焦らすようなゆっくりとした動きで。

**かなめ**「チンポ……お、おチンポ……欲しい、のお……ウザ生意気でスケベな後輩の……おチンポ、欲しい……っ!」



「うう、あううう……まだ出てるう……  
お腹の奥に、おマンコに、染み込んで  
くるう……はあ、んん……ひやああ、  
きやうううん……♡」

遙香「はあ、あつ、ああああ……はひいいい……♡ 熱いの、入って、くり  
ゆうう……らめえ……ああん、らめ、なのがいい……♪」

濃密な精液を、生クリームのように絞り出してマンコの奥全体を白くトッピングしていく——そんな光景を幻視しながら放出してやる。俺の体温そのまの濃密体液を子宮で受け止め、遙香は鍛え抜いたボディをビクンビクンと繰り返して波打たせていた。

遙香「ひううう、まだ、出てりゅ……ひっ、やあ、も、もう止めてええ……穢れひやうう……お姉様に可愛がられなく、なっひやうう……」

身体を快感にわななかせながらも、悲しみを瞳いっぱいには浮かべている。大粒の涙が顔を滴り落ちる様子は、申し訳ない気持ちと、女の本能と感性がせめぎ合う美しい芸術作品を想起させられた。

遙香「あ、ん……はあ、はあ……んんうん……」

炎寿馬「ほら、お姉様のことは一旦忘れてだなあ……もっとう、自分の身体  
の感覚を堪能すれぽうだ？ はあ……ふう……」

遙香「う、ううう……言わないでえ……意識しないように、頑張ってたのに  
い……はあ、ああ、あはあああん……♡」

ビクンッと遙香の身体が痙攣する







「ねろ、れろれろ、ちゅぷん……呼吸が乱れてる……  
もっと運動強度を上げて、身体を作ってあげなきゃ  
……ぺろれろ、にゆるう……」

**道子**「したくて、激しくしてるんじゃ……れるれる、んちゅ、ねろん……もう  
……バカ……いちいちそんなこと、いわないの……」

**炎寿馬**「お、おお、すまん……」

声の中に悶えるような羞恥を漂わせながら、クリクリとマンコの辺りを薄く  
小さな生地越しにこすりつけ続けていた。蓄積させられる刺激の中心に、  
自然と視線が引き寄せられてしまう。キュッとくびれたウエストと幅広の腰  
が描く凄まじくセクシーな双曲線……。特大おっぱいの描く曲面と曲線も  
素晴らしいが、体幹を支える筋肉美もたまらなく俺を掻き立ててくれるので  
ある。

**道子**「ひうう……や、やだ、チンポ、もっと立派になってる……反り返って、  
私のお腹の突き刺さってくる……」

**炎寿馬**「んー……もっと違う運動がしたいって、アピールしてるのかも」

**道子**「まだよ……ほら、ほらほら、腕を止めない……呼吸も規則正しく……  
はあ、はあ……んっ、ちゅぬ、れるれる、れろん……」



「きょうう……まだ、出てるう……あああ  
ん、お客様に、妊娠させられひやうう  
……はー……はひい……んくうう……」  
(珠子)

**珠子**「ひぐうう!!? ひやひいひい!! あっ、あっ、お、お客様ああ……お、  
おマンコの中で、粗相はこ、こ、困りまじゅう!!」

**炎寿馬**「はあ……はあ……うああ……出るう、すげー……」

**さやか**「はー……はああん♪ すごおい……ザーメンミルクの匂いが、こ  
んなにいい……おっぱいミルクの香りより濃い……はへええ……」

**千秋**「ああああん……顔がドロドロお……んはあ、鼻の中に入っちゃったあ  
……はー……はー……あへええ……」

珠ちゃんの可愛いおマンコから、精液が豪快に溢れ出していく。飛び散  
った白濁ザーメンが千秋ちゃんとさやかちゃんをも淫らに染めてしまう。







▲学園島全景



▲学園外観



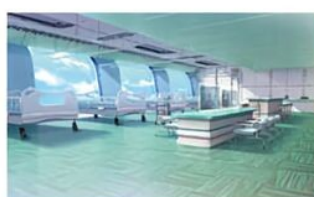
▲生徒玄関



▲廊下



▲教室



▲保健室



▲中庭



▲美術室



▲調理実習室



▲女子更衣室



▲屋内プール



▲屋内プール (水なし)



▲テニスコート



▲訓練場



▲体育館



▲体育館 (レスリング)



▲体育館 (新体操)



▲体育館 (トレーニング)



▲射撃場



▲ビーチバレーコート



▲学園ゴルフ場





▲主人公の部屋



▲主人公の部屋 (夜)



▲主人公の家の居間



▲主人公の家の居間 (夜)



▲主人公の家の玄関



▲主人公の家の玄関 (夜)



▲スポーツジム



▲銭湯女湯



▲プールファミレス



▲リニアモノレール車内



▲ケータイショップ



▲歯科医院



▲モール



▲ランジェリーショップ



▲ラブホテル



▲主人公の家の風呂



▲飛行機内



▲銭湯脱衣所



▲ゲームセンター



▲スタジオ



▲ゲーム内ダンジョン



▲異世界ユリドラシル



▲砂浜



▲バンガロー



▲バンガロー (夜)



▲バンガロー (夜/トリプル)



▲夢の中 (異世界ユリドラシル)



▲野望成立!



【オギン★バラ氏が手掛けたデザイン草案ラフ】



## キャラクターデザイン





## キャラクターデザイン(裸)



## キャラクターデザイン(倍力スーツ)



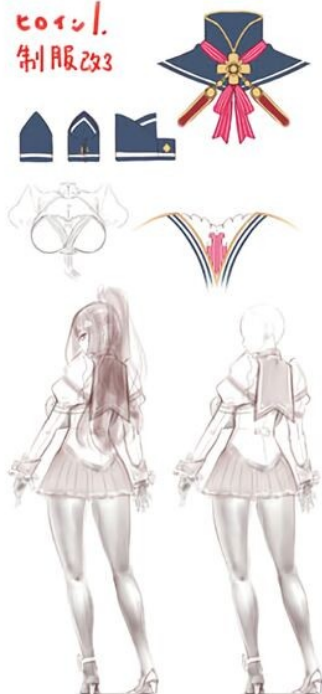
*Costume design that the two worked together. (オギン★バラ)*



【オギン★バラ氏が手掛けたデザイン草案ラフ】

制服デザイン

ヒロイン/  
制服改3



制服デザイン改





## 衣装デザイン改



## 倍力スーツデザイン

「倍力」衣装  
デザイン!



*Costume design that the two worked together. (オギン★バラ)*



【でらうえあ氏が仕上げた各ヒロインのデザインラフ】

嬢ヶ崎 莉音



美咲 恋乃香

黒森姫 晶







西園寺 奈々子

水瀬 摩耶



湯谷 ひなた

*Costume design that the two worked together. (でらうえあ)*



【でらうえあ氏が仕上げた各ヒロインのデザインラフ】

御堂 楓



園宮 優華理





伊々月 リリア



リーシャ



*Costume design that the two worked together. (でらうえあ)*



# Milk Factory みるくふぁくとりー

[リミテッド・インタビュー 2]

## LIMITED INTERVIEW 2

～作品を生み出すメインスタッフが語る制作裏話～



### みるくふぁくとりー代表

みるくふぁくとりーを仕切るチャレンジ精神が旺盛な偉い人。



### でらうえあ

みるくふぁくとりーの原画家。名前の表記は全部大文字です。



### 唐子ニコフ

おっぱいと流行に熱視線を送るみるくふぁくとりーのディレクター。

### 新生ブランドとして 魂だけを継承

——みるくふぁくとりーのデビュー作をリリース後、ユーザーからの反響などとはどのような感じでしたか。

**みるくふぁくとりー代表 (以下、代表) :**  
“みるくふぁくとりー”と言うより“でらうえあ”としての新作の反響の方が大きかった気がします。実績のあるスタッフ陣とは言え、新参メーカーなので……ただ、作品を重ねるごとに、どんどんユーザー様に知っていただけた実感がありました。

——その重ねた作品というのが、第2弾の『もっと!孕ませ!炎のおっぱい超エロアプリ学園!』な訳ですが、“アプリ学園”という舞台を選んだ経緯を教えてください。

**ディレクター唐子ニコフ (以下、唐子) :**  
“アプリ”という言葉や仕組みが世間一般に広く認知されているのと“スマホ”という身近なツールを使用したシチュエーションの“学園もの”という企画がユーザーに受け入れられやすいのではないかと考えたこと。また、アプリ=エロシチュエーションという構図はエロシチュエーションのアイデアが出しやすいこと、何よりユーザーがイメージしやすいのも理由のひとつ

つです。

——“アプリ”という題材から、『炎の孕ませおっぱい★エロアプリ学園』(SQUEEZ)との関係性が気になってしまうのですが……。

**唐子:**“アプリ”を使用したシチュエーションやシナリオシステムに関しては近いものがありますが、世界観に関しては関連性はありません。

——関係性はないんですね。世界観を受け継いで制作された作品なのだと勘違いしていました。

**代表:**みるくふぁくとりーは、前の会社が事業停止をしたことで生まれたブランドなので、決して後継ブランドではありません。ただ、元SQUEEZ制作スタッフで構成されておりますので、“孕ませ”の魂を受け継いでいるとは思っています。

——みるくふぁくとりーが継承している王道とは何だと考えられていますか？

**唐子:**“ハプニング系エロ”と“流され系エロ”の王道で構成されているような感じです。少年漫画誌などでやっているような“女の子とぶつかったら目の前がノーパンの土手”や“女の子ととっさに入った更衣室のロッカーの中で密着素股”といったものですね。

——'90年代……いや、'80年代から妄想されてる日常シチュエーションということ



▲秋葉原の看板に使われたイラストは、『もっと!孕ませ!炎のおっぱい超エロアプリ学園!』パッケージの水着差分。大事なところは隠してあるが、横幅が数メートルのビックサイズになると、溢れ出す色香が止められなくなる!?

すか。

**唐子:**はい。昔からある日常の中に潜んでいるエロ願望の王道ですね。“街の中を歩いている女の子をどうしたいか?”または“今日の前にいる女の子にどんなことをしたいか?”に対する答えが王道。

——答え、といいますと?

**唐子:**“透明人間になってバレないように痴漢したい”や“ランジェリーショップの更衣室の鏡がマジックミラーになってずっと眺めていたい”、または“ランジェリーショップで着替えている女の子の着替えの手伝いをドスケベにしたい”などです。あげればキリがないですが、こういったことをいかにうまくゲーム内に取り入れるか? でしょうか。

——王道とは別に、新たなブランドのコンセプトとして心がけていることはどんなことでしょうか。

**唐子:**おっぱいエロ、多人数エロ、孕ませ攻略エロ、学園を舞台にしたエロ。ですね。

### みるくふぁくとりーの 制作上のこだわりとは?

——本作を作るにあたって一番苦労したのはどこでしょうか。

**唐子:**アプリ=エロシチュエーションなのですが、種類を揃えるのに意外と苦労





▲今作では母親以外にも新キャラが続々登場！ 理想を実現するために、こういう所に手を抜かないことも人気のひとつだろう

しました。また、超エロアプリが起動するプロセスがあまり短絡的なものにならないように注意しました（宣伝などで映えるような内容やストーリー的に主人公の妄想と関連性のある内容など）。

——広報的なことにまで考えられているんですか。

**唐子：**具体的には、CGをパッと見てエロアプリのシチュエーションがなんとなく分かったりイメージすることができる、そんな構図や背景を考えることに苦労しました。

——本作を作るにあたって一番こだわった部分はどこでしょうか。

**唐子：**エロCGの表情の細かさにこだわりましたね。

——その表情が豊かになったキャラですが、以前はヒロイン数を固定してはいませんでしたよね。前作、本作と10名にされているのは理由があるのでしょうか。

**唐子：**数字が1桁と2桁では数に対するイメージが違うと思っているからです（9人と10人は数としてはひとつしか違いませんが、メインキャラ9人とメインキャラ10人ではパブリッシュで受け取られるイメージがだいぶ変わってきます）。

**代表：**なので、「もっと！孕ませ！」シリーズを開発するときのルールとして、ヒロインの数を固定することにしました。

——それで、3作目「もっと！孕ませ！炎のおっぱい異世界超エロサキュバス学

園！』でもメインヒロインは10人なのですね。流行にのるというコンセプトを重視するなら、ヒロインを4～5名にするという選択もあったと思うのですが、それを選ばなかったのは何故でしょうか。

**唐子：**パブリッシュで1列にヒロインを並べたとき、4～5人よりも10人いたほうが条件反射的に作品のスケール感をアピール出来るのと、ヒロインの数が少ないとパブリッシュのビジュアル的に映えないからです。

——確かに、ファーストインパクトは圧巻です。

**唐子：**そういう狙いもあって、話題性を重視しました。他のメーカーがすでにメインヒロイン4～5人のゲームをリリースしていますので、我々が追従しても埋もれてしまい話題にならないと考えたのも理由のひとつです。それに、「もっと！孕ませ！」シリーズと言えば“多人数（10名）”というのが小売店様やユーザー様に認知されつつあり、また期待されていると感じていたのです。

——唐子ニコフさんも代表と同様に手応えを感じられていたのですね。

**唐子：**それに、ヒロイン数を4～5人にとすると好みのキャラに出会えない可能性もあるし、逆に制限がキツク感じてしまうんです。だから私としては、10人の方が作りやすいんですよ。

——多い方が作りやすいんですか!? 多

人数ヒロインで制作することが身に染みついているんですね。そういえば、本作には前作に引き続き母娘丼が用意されていますが、このプレイを採用することになったきっかけや経緯を教えてください。

**唐子：**メインキャラがおっぱいの大きなキャラばかりなので、その母親は一体どんなおっぱいなんだろうかと、ということが気になるのは私だけではないはずだと思ったので、その母親のエロシーンも見たい！ 取り入れよう！ となるのは自然な流れで、特別に何かきっかけがあったとかではないですよ。それに“メインキャラの母親も攻略！”という見出しが打てるとパブリッシュ的に映えたり、雑誌や小売店様にセールポイントとしてアピールしやすいという側面もあります。

——この母親たち、前作同様に資料がありませんでしたが、どのように指示をだされているのでしょうか。

**唐子：**簡易的なキャラ設定は制作中にコンテなどに直接記載していたりするので、仕様書としては存在していませんでした。

——コンテに直接記載ですか!? 本作ではサブキャラの知人なども登場しますよね。キャラも発案は唐子ニコフ様と伺いましたが、1作品に30名以上のキャラが登場するとすると、考えるのが大変かと思うのですが、どうやって生み出しているのでしょうか。

**唐子：**その時々で流行っていたり話題になっているアニメ、漫画、ソシャゲ、ラノベなどのキャラを、ある程度ではありますが参考にしたりして、話題性のある作品やビジュアルのキャラを参考にしています。ユーザーさんのフックにひっかかる様な特徴（髪型や身長、肌の色やキャラ世界観）を頭の中に放り込み、そこにみるくふあくとりのエッセンスを加えて脳内でパズルを構築するようにキャラを作っています。

——完全オリジナルと思われるキャラもいるようですか!?

**唐子：**“バレー部でショートヘア。高身長でスケベに流されやすい女の子”とか、“気が弱い幼なじみで母乳が出るのを気にしている。昔からこっそり主人公に搾乳してもらっている”というよう

ユーザーさんのフックにひっかかる様な特徴（髪型や身長、肌の色やキャラ世界観）を頭の中に放り込み、そこにみるくふあくとりのエッセンスを加えて脳内でパズルを構築するようにキャラを作っています。（代表）



## ブランドのコンセプトとして心がけていることは、おっぱいエロ、多人数エロ、孕ませ攻略エロ、学園を舞台にしたエロ。ですね。(唐子)

なエロシチュエーションを勝手に想像できるような、王道的なエロシチュエーションから作るキャラもいますね。

——シチュエーション先行でキャラが生まれてくることもあるんですね。

**代表:**その他の方法だと、アンケートやTwitterなどインターネットからの要望を反映したりもします。

——あらゆる角度から、30名以上の多様なキャラを生み出しているのですね。それらをでらうえあさんにビジュアルデザインして頂く際、どういった点を重視しているのでしょうか。

**唐子:**全体の雰囲気気がぱっと見て“エロそう”“かわいい”“ツンデレエロ”“オトナっぽくてエロい”など、ビジュアルがすぐ伝わりやすそうなキャラの仕様書を制作すること。また、おっぱいの“ボリューム”“弾力感”“むっちり具合”など、おっぱいのステータスが絵に反映されやすいようなキャラの仕様書を制作すること。この2点ですね。

——髪型などは、どこまで指定されているのでしょうか。

**唐子:**髪色以外はヘアスタイルなどを指定しています。ただ、細かい部分は原画家さんの裁量に任せています。

——王道に寄り過ぎないように、代表から巻き髪キャラや褐色の女性を取り入れるように言われているそうですね。アンケートなどもどうだと思うのですが、自分発信ではないキャラを生み出すのは、どういったことが大変でしょうか。

**唐子:**業務というスタンスに切り替えて仕事をするので、要求されている仕様に近づけているかどうか。それとサブカルチャー的な流行は秒進歩なので、1度決定したキャラでも仕様変更が発生してしまった場合ですね。

——『もっと!孕ませ!炎のおっぱい異世界エロ魔法学園!アトワークス』での取材で、でらうえあさんも言われてました、決定後に変更されることがあると。それはビジュアルに限った話ではなかったんですね。しかし、これだけキャラを生み続けていると、前に似たようなキャラを作ったことあるかも!? という風にはならないものなのでしょうか。そうならないためにされてる工夫などがあったら教えてください。

**唐子:**似たようなキャラになりそうなきは、外見や性格などを多少変更したりして対応している感じです。ただ、あ

まりにも毎回違うキャラを出すことにこだわりすぎて、王道的なキャラが居なかったりパブリッシュ的に映えないキャラを生み出してしまわないように気を付けています。それでも、どうしても同じになる場合は会議でフタツツと打ち合わせをしています。

### 独立後の挑戦と今後の展望

——以前はやりたくても出来なかったけど、独立したことで挑戦できたこと、などはありますか?

**唐子:**キャラのエロシーンを増やせるようになったことでしょうか。それにキャラのボイスを効果的に増やせるようになりました。前は非常に制限されていたので。

——イベントやTwitterなどのSNS展開など、独立されてからは動きが活発になっていますが、今後何かやってみたいことはありますか?

**代表:**コミックマーケットに、企業として参加してみたいです! コミケに出演できたなら、オリジナルのグッズなども作ってみたいです。しかし、ユーザー様からは「そんなことより新作作りなさい」と言われそうですが……。

——みるくふぁくとりのファンは、ゲームもイベントも楽しみにしてるように思うので、どちらかではなく、両方! と言われるのではないかと(笑)。そういえば、本作の看板を秋葉原にドンと打ち出したことも、そういった挑戦のひとつだったと思うのですが、思わぬ形で話題となりました。これは、どういう風に受け取られていましたか。

**代表:**まず、秋葉原への看板掲示は、作品を知っていただくための広告宣伝が主な理由なのですが、聖地である秋葉原へ看板を出したい! という、田舎者の憧れもございまして……。ですが、僻地の田舎者が世間の世情に敏感なハズも無く、様々な方々へご迷惑をお掛けする事となりました。秋葉原にて心情を悪くされた方々、ご迷惑をお掛けした方々、皆様に深くお詫び申し上げます。

**でらうえあ:**でも、好意的に受け取ってくださったユーザーさんや他メーカーさんの応援の声もこちらには届いていましたので、それは嬉しかったです。

——秋葉原に行ってみたものの看板を

見れなくて残念、といった気持ちはあったと記憶しているので、それがしっかり届いたのは良かったですね。ところで、本作でキャラクターデザインにオギン★バラさんを起用されたのも、挑戦のひとつなのでしょう。

**でらうえあ:**挑戦というのとは少し違いますが、元々デザイン性が高い作家さんなので、以前からお願いしたいと思っていました。私がひとりでもやり続けると、細部の表現などはどうしても限界があるので、バリエーションを広げる意味でも、私とは違ったことができる方をお願いしたかったんですね。ディテールが細かな方なので、お願いして良かったです。

——みるくふぁくとりーは、新しいことを取り入れていく方針と伺いましたが、軸となっているコンセプト(普遍的な要素)とは何でしょうか?

**唐子:**タイトルで製品のコンセプトわかる。わかりやすく妄想しやすいエロシチュエーション。“おっぱい”はビジュアル的に正義。わかりやすい主人公の目的と世界観。主人公と女の子たち、みんな幸せになる。ハッピーエンドが基本。エロシーンはハードであっても凌辱的にならないようにする。主人公が複数の女の子に手を出してエッチしても女の子がそのことに対して責任を追及するような行動に出たりしないこと……ですね。

——独立前からの歴史もあるので、継承していることはとても多いですね。では、本作で進化させていることは何でしょうか。

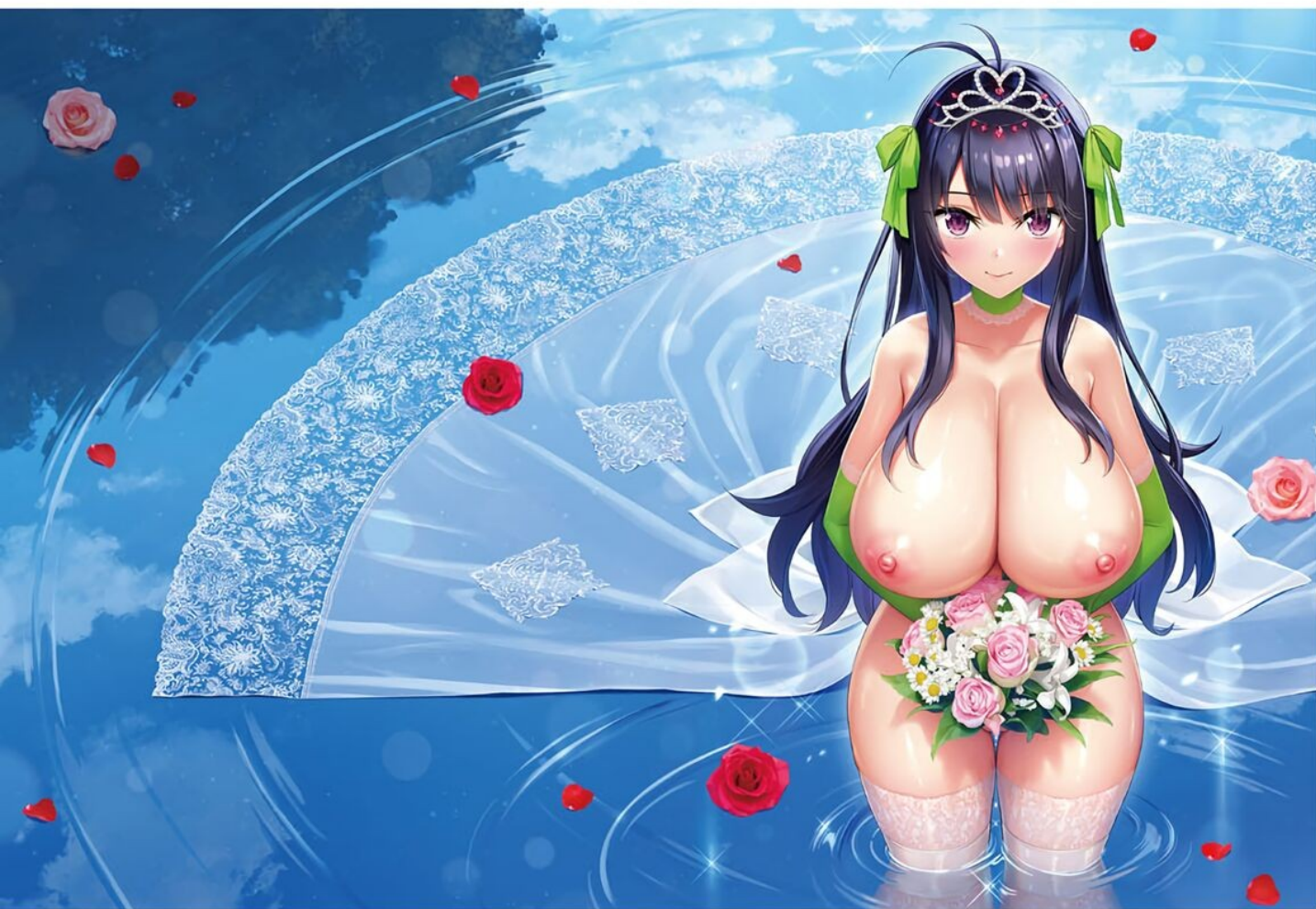
**唐子:**『もっと!孕ませ!炎のおっぱい異世界エロ魔法学園!』からCGの塗りを変更しました。

——前作でもグラフィックを一新させていたと思いますが、さらに彩色変更をされたのですか!? それだけ彩色の流行り廃りは変動が激しいということなんですね。となると、一口に流行を取り入れるといっても、大変なのですね。逆に取り入れられないものはどんな要素でしょうか。幸せにはなりそうにないNTRとかでしょうか。

**代表:**個人的に嫌いでは無いですが、みるくふぁくとりーとしては、NTRを取り入れることは無いと思いますね。

**唐子:**ライトノベルやアニメで流行っている“ループ系”“ザッピング系”なども





▲本誌の表紙を飾ってくれたのは、幼なじみヒロインのひとり娘ヶ崎莉音。この可愛い姿の衣装は全3パターン。表紙以外の差分イラストも本誌に掲載されているので、探してみてね。

取り入れてないですね。エロではない全年齢的な内容では映えるのかもしれませんが、エロゲの場合は、これらの要素が“エロ”として大きな売りにならない……というのがあるかもしれません。

——過去にはそういうエロゲもありましたよね。

**唐子**：最近、昔にくらべてゲーム性はほとんど求められていないので。

——確かに、傾向としてそうですね。

### 続編の可能性は ユーザーしだい!

——以前に月刊メガストア誌上で取材をさせて頂いた際、ブランド名の“みるく”については、おっぱいや母乳を容易に連想できるワードとして冠したと伺いましたが、改めてブランド名の由来を教えてください。

**でらうえあ**：ブランド立ち上げ時にワン

ルームマンションの一室でみんなで話し合って決めました。“みるく”に関しては結構すぐに決まりまして、母乳でも精液でもどっちに受け取ってもらってもおもしろいかもね～なんて話をしました。

“ふあくとりー”は割と身近にある言葉だったのですが、意味的に合うかもね～となり決まりました。全部ひらがなにしたのは、まあいい優しいイメージで行きたかったというのがあります。

**代表**：“ふあくとりー”は地元由来の言葉でもあるんですよ。

——そうだったんですね。本作ではキャラ名にも地元由来のワードが採用されているとか。

**唐子**：この当時、コンシューマやアニメに限らず、ラノベや他のエロゲなどでも、キャラに何か関連性を持たせたような命名のされ方が流行っていたような気がします。我々は、北海道の札幌

にあるメーカーだったので札幌の地名から命名しました（地元ファンへのサービスです）。

——知ってる地名とかあると何気に嬉しくなりますよね。それほど地元愛が詰まっているということは、この世界観で『もっと!孕ませ!炎のおっぱい超エロアブリ学園!2』が制作される可能性はありますか。

**代表**：小さい会社なのでなかなかリソースが割けない部分がありますが、ユーザーさんからの要望が多ければあるかもしれません。

——『もっと!孕ませ!炎のおっぱい異世界エロ魔法学園!アートワークス』で代表が言われていた条件（気になる方は購入してね）を守ったうえで、ですよね。そういう方向に世界観を拡張した作品も、いずれ見て見たいですね。ではまた3冊目でお会いしましょう!

**オギン★バラ**さんは、元々デザイン性が高い作家さんなので、バリエーションを広げる意味でも、私とは違ったことができる方に（キャラクターデザインを）お願いしたかったんですね。（でらうえあ）





## もっと! 孕ませ! 炎のおっぱい超エロアプリ学園! アートワークス

2022年9月14日 初版第1刷発行

|         |                              |
|---------|------------------------------|
| 発行人     | 中沢慎一                         |
| 編集      | メガストア編集部                     |
| 監修・協力   | みるくふぁくとリー                    |
| 装丁・デザイン | 株式会社 Sorairo                 |
| 発行所     | 株式会社 コアマガジン                  |
|         | 【営業】                         |
|         | 〒171-8553 東京都豊島区高田 3-7-11    |
|         | 電話 03 (5950) 5100            |
|         | 【編集】                         |
|         | 〒171-0033 東京都豊島区高田 3-7-11 4F |
|         | 電話 03 (5952) 7812            |

|    |            |
|----|------------|
| 製版 | 株式会社山栄プロセス |
| 印刷 | 大日本印刷株式会社  |

ISBN 978-4-86653-618-7

©みるくふぁくとリー All Rights Reserved.

乱丁・落丁本は送料弊社負担にてお取り替えいたします。ただし中古でお求めいただいたものはお取り替えいたしかねますので、購入された書店を明記の上弊社営業部までお送りください。

本書の一部または全部を、無断で複製複写（コピー・スキャン・デジタル化等）すること、または本書の複製物の一部または全部を無断で譲渡し、もしくは配信することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼して複製複写（コピー・スキャン・デジタル化等）することは、たとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反となります。